

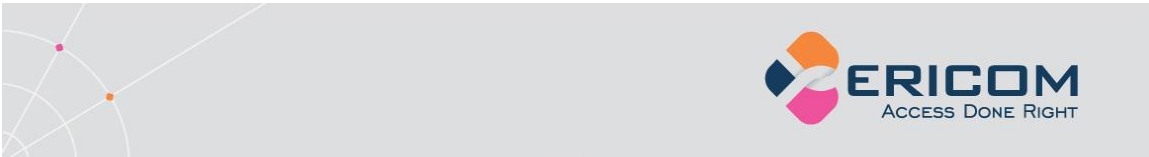


Ericom BlazeTM

Microsoft Remote Desktop
Protocol(RDP)の強力な圧縮とアクセラ
レーション

管理者用マニュアル

バージョン 7.5.1



法律上の注意事項

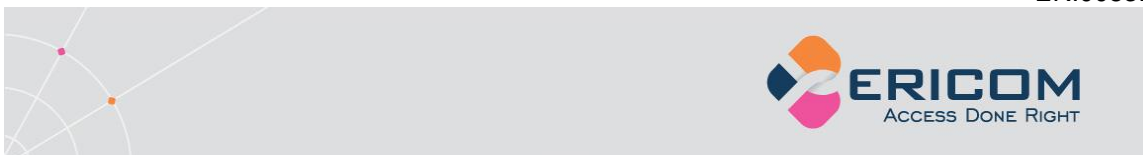
このマニュアルは以下の条件ならびに制限の対象となります:

- このドキュメントは Ericom Blaze™ に関する資料です。
- この情報の所有権は Ericom® Software に属し、明示的かつ適切に認められた Ericom Blaze™ ユーザの支援のみを目的として提供されています。
- ドキュメントの内容のいかなる部分も、電子的または機械的ないかなる手段により、いかなる目的で、いかなる個人や会社に対しても、Ericom® Software から
の書面による事前の許可なしに公表してはなりません。
- テキストやグラフィックスは例示や参考のみを目的としています。ドキュメント
内容の基となる仕様は事前の報告なしに変更される場合があります。
- このドキュメントで説明されているソフトウェアはライセンス契約のもとで提供
されています。このソフトウェアは契約条件に従ってのみ、利用あるいは複製
することができます。
- このドキュメントの情報は事前の報告なしに変更される場合があります。例示で
使用されている企業や個人の名称などは、注意書きがない限り架空のものです。

BLZAdminMan20160308

Copyright © 1999-2016 Ericom® Software.

Ericom は Ericom® Software の登録商標であり、Blaze は Ericom® Software の商標です。
その他の企業ブランド、製品名やサービス名は各社の商標または登録商標です。



目次

| | |
|--|----|
| このドキュメントについて | 4 |
| 1. 概要 | 6 |
| 2. ERICOM ACCESS SERVER | 9 |
| 3. ライセンスの概要 | 22 |
| 4. ERICOM BLAZE CLIENT FOR WINDOWS | 27 |
| 5. MWARE® VIEW クライアント・モード | 45 |
| 6. ERICOM BLAZE CLIENT FOR MAC | 49 |
| 7. ERICOM BLAZE CLIENT FOR LINUX | 53 |
| 8. ERICOM をアンインストールする | 58 |
| 9. BLAZE とロード・バランサ | 60 |
| 10. BLAZE クライアントのコマンド・ライン・パラメータ | 62 |
| 11. テクニカル・サポート | 66 |
| ERICOM について | 73 |



このドキュメントについて

このドキュメントでは、Microsoft リモート・デスクトップ・プロトコル(RDP)通信のアクセラレーションと圧縮のために、Ericom Blaze のインストール方法と使用法について説明します。このマニュアルの説明に沿って、すぐに Ericom Blaze の機能を使い始めることができます。

このガイドには、以下の情報が記載されています。

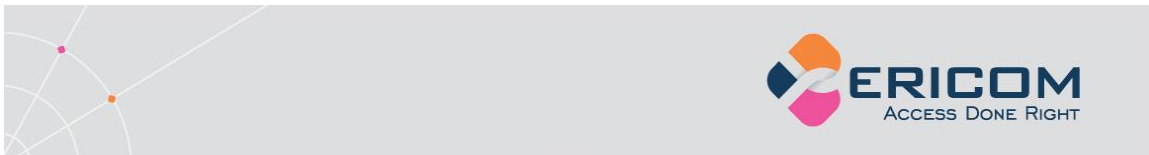
- Ericom Blaze の概要
- 事前準備とインストールの手順
- 使用方法
- トラブルシューティングとテクニカル・サポート

このマニュアルでは、以下の知識のある読者を想定しています。

- Windows オペレーティング システムでの RDP の有効化
- ファイアウォールの設定
- Web サーバの管理

このドキュメントで使用される重要な用語

- RDP: リモート・デスクトップ・プロトコル(Remote Desktop Protocol)の略。Microsoft にて開発されたリモート・ディスプレイのプロトコル。RDP は Microsoft Windows の標準的なコンポーネントのひとつです。
- RDP ホスト: Microsoft RDP を使用してリモートよりアクセスできる Windows システム。ターミナル・サーバ(RDS セッション・ホスト)やリモート・アクセスが可能な Windows ワークステーションなど。
- HTML5 : HTML 規格の新しいアップデート。HTML にコミュニケーションや表示などのために新たな特徴や機能を追加拡張。



- WebSocket: HTML5 規格で公開された双方向・全二重の通信用メカニズム。
- SSL: セキュア・ソケット・レイヤー(Secure Sockets Layer)はインターネット上で安全なコミュニケーションを提供するための暗号化プロトコルです。



1. 概要

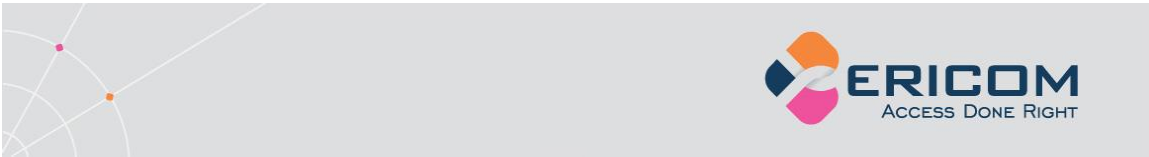
Ericom Blaze は、衛星通信、ブロードバンド、AirCard などの大部分のワイド・エリア・ネットワーク(WAN)上で、強化されたリモート・コンピューティング体験をエンドユーザに提供します。Microsoft リモート・デスクトップ・プロトコル(RDP)の大幅なアクセラレートと圧縮を行うことにより、これが実現されています。それにより、高いフレーム・レート、向上した応答時間、よりスムーズな画面の更新が提供されます。

Ericom Blaze は、以下の動作を実行します:

- RDP 通信を分析し、ビットマップなどのグラフィック要素を識別し圧縮します。最適なユーザ・エクスペリエンスを提供するために、品質と圧縮の比率を設定可能です。
- タスクバーやスタート・メニューなどの主要なグラフィック要素を識別し、全体の品質設定に関わらず、高い品質でそれらを圧縮します。これにより、視覚的に品質低下のないリモート・コンピューティング体験が提供されます。
- 高パフォーマンスの一括圧縮方式を使用し、RDP 通信全体を圧縮します。
- ネットワーク使用の最適化とデータ・パケットの転送を高速化のために、パケット・シェーピングを実行します。
- 画面がブロックの連続ではなく、1つのユニットとして表示されるよう、インテリジェントにフレームをレンダリングします。

Ericom Blaze は、RDP に対応しているすべての x86 または x64 ベースのホスト・システムで動作します。例えば、Windows ターミナル・サーバ、リモートの物理システム、VDI ベースのデスクトップなどです。Ericom Blaze は以下のコンポーネントで構成されています:

- **Ericom Access Server**
このコンポーネントは、RDP の圧縮とアクセラレーションのために RDP サーバ/ホストにインストールします。以下のプラットフォームがサポートされています:



- Windows 2008 32 ビットおよび x64
- Windows 2008 R2
- Windows 2012、R2
- Windows 7、Windows 8.1 32 ビットおよび x64

- **Ericom Blaze クライアント**

このクライアント・コンポーネントは、アクセラレートされた RDP を使用して Access Server に接続します。また、任意の標準 RDP ホストに接続することができます。以下のプラットフォームがサポートされています:

- Windows 7、Windows 8 32 ビットおよび x64
- Windows Server 2003 以降 -32 ビットおよび x64
- Linux (AccessServer7.*には対応していません)
- Mac OS X (AccessServer7.*には対応していません)

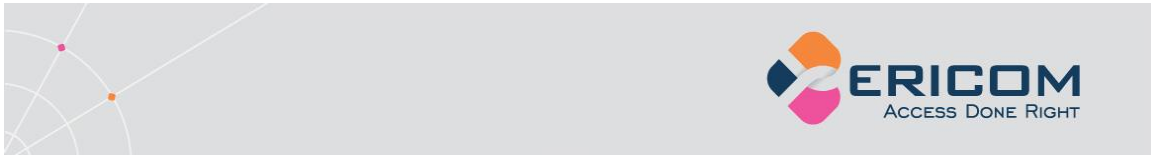
- **Ericom Blaze モバイル・クライアント**

このクライアント・コンポーネントは、アクセラレートされた RDP を使用して Access Server に接続します。また、任意の標準 RDP ホストに接続することができます。以下のプラットフォームがサポートされています(詳細については、AccessToGo のマニュアルを参照ください):

- Apple iOS 8 以上
- Android OS 5 以上

5 分で使用を開始する

Ericom Blaze は、豊富な機能を備えた、使いやすいアプリケーションです。このマニュアルでは、ユーザの環境に最適なアプリケーション設定を支援するために、使用可能なすべての機能を網羅しています。



基本的なインストールは約 5 分間で完了し、Blaze クライアント(AccessToGo を起動しているモバイル・デバイスを含む)を起動している任意のデバイスから、Windows RDP ホスト(サーバやワークステーション)にアクセスできるようになります。

- 1) Ericom の Web サイトから、*EricomAccessServer.msi* をダウンロードします。
- 2) MSI インストーラを実行し、すべてのダイアログ・ボックスで *Next* をクリックし、最後に *Finish* をクリックします。
- 3) Blaze を使用するために、Windows ファイアウォールを設定(または無効化)します。
Access Server インストール時に Windows ファイアウォールは自動で設定されます。
- 4) Ericom の Web サイトから、*EricomBlazeClient.msi* をダウンロードします
 - a. モバイル・デバイスから接続している場合、AccessToGo アプリをデバイスにダウンロードします。
- 5) Blaze Client(または AccessToGo)に Access Server のパラメータを入力し、接続 ボタンを押して接続を開始します。



2. ERICOM ACCESS SERVER

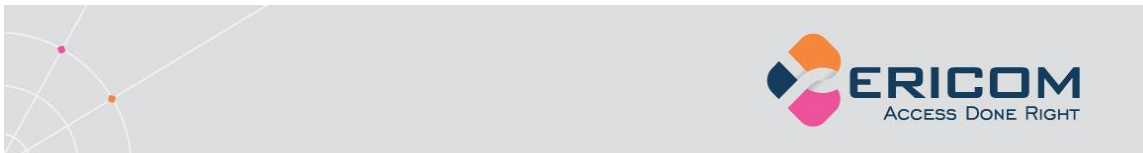
Ericom Access Server では AccessNow HTML5 アクセスと Blaze RDP 圧縮やアクセラレーションの機能が提供されています。試用期間中はすべての機能が利用可能となり、試用期間終了後はアクティベーション・キーを使用してロック解除することで各機能が利用可能になります。ホストには、Windows ターミナル・サーバや Windows ワークステーションなどの RDP アクセスが有効となっている Windows システムを使用できます。Access Server はカスタマイズ可能なポートを使用しており、ポート番号のデフォルトは 3399 となります。AccessNow が使用するポート 8080 も有効にされていますので Blaze Client からポート 8080 で接続する場合は接続先コンピュータ名のフィールドにポート 8080 を明示的に指定してください。(例：192.168.1.100:8080)

注意 Ericom Access Server 3.x は、Blaze のバージョン 2.x 以前のバージョンには下位互換性がありません。以前のバージョンの Blaze を使用している場合、バージョンが一致するように、すべての Blaze クライアントとサーバ・コンポーネントをアップグレードしてください。

Access Server は、RDP ホストまたはプロキシとして動作する専用のシステム(「ジャンプ」サーバとも呼ばれます)にインストール可能です。Access Server を RDP ホストに直接インストールすることをお勧めします。ファイル転送などの一部の機能は、Access Server が RDP ホスト自体にインストールされている場合においてのみ利用可能となります。Access Server は比較的軽快に動作するため、RDP ホストのパフォーマンスや拡張性への影響は最小限にとどまります。

Ericom Access Server 要件

- Windows オペレーティング・システム
- ホスト OS にて受信用 RDP 接続が有効である(例: ターミナル・サーバ)
- ハードディスク上の 80MB の空き容量
- MMX および SSE2 対応 CPU



- Access Server による 3399 ポートまたは AccessServer(32/64).exe のトラフィックが可能に設定されたファイアウォール

Access Server はアクセラレーションまたは HTML5 アクセスが必要とされる各サーバホストにインストールする必要があります。すべてのユーザのセッションをアクセラレーションするために、1つのターミナル・サーバのインストールが必要です。各ワークステーションやデスクトップ(物理または仮想)にインストールが必要です。Microsoft® Sysprep または Symantec® Ghost を使用してデプロイされるイメージの一部として、Access Server を含むことが可能です。

すべてのネットワーク・インターフェースに対するバインド・サービス

仮想ネットワーク環境において、1つの仮想 NIC のみを使用するのではなく、すべての仮想ネットワークのインターフェースを使用するために、Access Server をバインドすることをお勧めします。対象とするエンドユーザが、Access Server で使用するネットワークのインターフェースに常時アクセス可能であることを確認してください。

ホストのファイアウォール設定

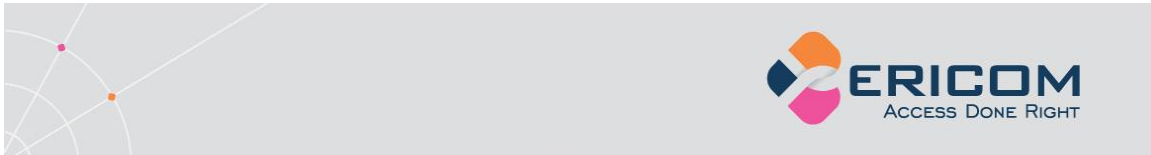
エンドユーザのデバイスから Ericom Access Server へのトラフィック通信を許可していることを確認してください。ファイアウォールの設定が必要となる場合があります。

(Access Server をインストールすると自動で受信規則が登録されます)

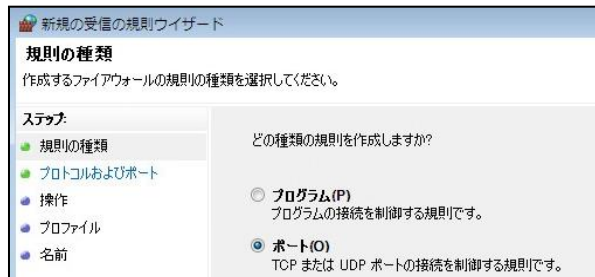
Windows オペレーティング・システムでは、Windows ファイアウォールが Access Server ポート(デフォルトは 3399)を許可するよう設定されていることを確認してください。

注意 接続の問題を解決するには、一時的に Windows ファイアウォールを無効にします。ファイアウォールを無効にした場合のみで接続が可能となる場合、Access Server が使用するポートをブロックする規則が存在している可能性があります。

Ericom が使用するポートを許可する規則を追加するには、以下の手順を実行します(手順は Windows 7/2008 をベースにしています):



- コントロール・パネルに進み、Windows ファイアウォールに進みます。詳細設定を選択し、受信の規則を選択します。新しい規則をクリックします。



- ポートを選択し、次へをクリックします。指定のポート 3399 を入力します:



- 次へをクリックし、接続を許可するを選択します
- 次へをクリックし、規則を適用するネットワークを選択します(すべて選択)
- 次へをクリックし、規則に名称(Ericom)を設定した後、完了をクリックします

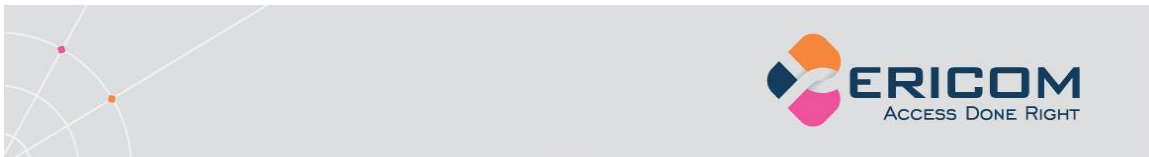
ポート転送の設定

Blaze が有効となっているホストへポート転送するためにファイアウォールを設定する際には、Access Server ポート（デフォルト: 3399）へ転送されていることを確認してください。3389(デフォルトの RDP ポート)には転送しないでください。

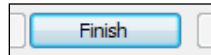
カスタム・ポートが使用されている場合、Communication ページで設定されているポート値に転送するようファイアウォールを設定します。

Eriocm Access Server のインストール

- *EricomAccessNowServer.msi* を実行し、インストール・ウィザードの指示に従います。
- License Agreement を確認し、同意します。



- *Install* をクリックします。(必要に応じて、セキュリティ権限を上げるリクエストを許可します)最後のスクリーンにて *Finish* をクリックし、インストールを完了します。



- Access Server ポートが利用可能であり、ホスト・システムにアクセスが可能なことを確認します。Access Server は自動的に必要な規則を Windows のファイアウォールに追加しますが、ネットワーク上でのファイアウォール設定の追加が必要になる場合があります。



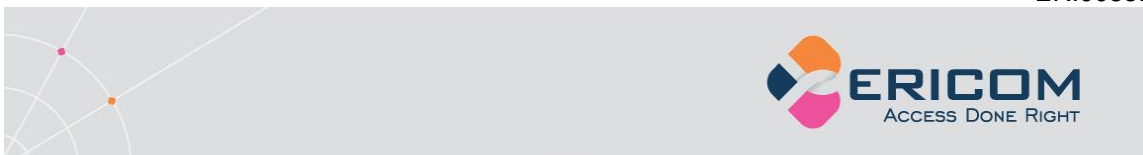
- インストールの後、Access Server はサービスとしてシステム上で実行されます。



- このサービスはシステム起動時に自動的に実行されるよう設定されています。
- サービスが停止しているか、またはデフォルトの 3399 ポートを認識できない場合には、クライアントはホストに接続ができません。他のアプリケーションが同じポート使用していないかを確認します。

Access Server は、Microsoft System Center のようなアプリケーション管理ツールを使用した、自動的なサイレント・インストールも可能です。

- サイレント・インストールを実施するには、次を実行します: `msiexec /i "EricomAccessServer.msi" /q`
- **EricomAccessServer.msi** は .msi ファイルへの有効なパスを表しています。



- Windows Vista、7、8、Windows Server 2008 と 2012 では、このコマンドはより権限の高い管理者の資格情報が必要とされる場合があります。
- ヘルプ・ダイアログを表示するには、パラメータを指定せずに MSIEEXEC を実行します。

注意 Access Server は、ホスト名に英文字以外の文字が含まれるシステムにはインストールできません。

Ericom Access Server の使用

Access Server の設定を変更するには: スタート | すべてのプログラム | *Ericom Software | Access Server Configuration* に進みます。スタート・メニューのないシステムでは、以下のコマンドラインを使用して GUI を開始することができます。

<ドライブ>:\Program Files (x86)\Ericom Software\Ericom Access Server\ServerConfiguration.hta

注意 Access Server は、AccessNow と Blaze 製品の**両方**で使用されます。

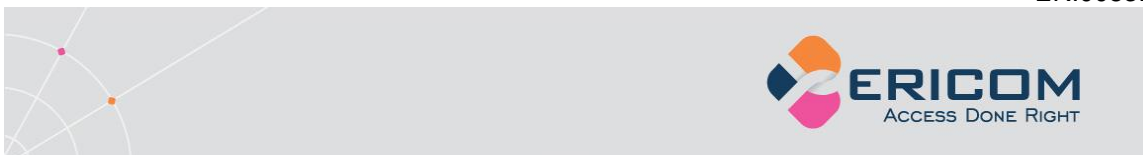
Access Server の設定

Server Configuration コンソールは一連のタブを提供し、管理者がサーバ・サービスへの様々な設定を行うことが可能です。Configuration コンソールは Microsoft Internet Explorer 7 またはそれ以上のバージョンを持つシステム上に限り動作します。(このコンソールは IE6 がインストールされているシステムでは起動できません)

ヒント ターミナル・サーバに Access Server をインストールする際、エンドユーザによる予期しない変更を避けるために、エンドユーザ向けには Server Configuration アプリケーションを非表示にすることをお勧めします。

General

このページは Access Server のサービスの再起動および停止の機能を提供します。一部の設定変更では、サービスの再起動が必要です。またこのページでは、システム上でアクティブな Ericom セッションの数が表示されます。



注意 Access Server のサービスが再起動される際、サーバ上のすべての AccessNow と Blaze のセッションの接続が解除されます。

| | |
|---|-------------------|
| Access Server service state: | Running |
| Access Server status: | Active |
| Number of sessions: | 0 |
| Started at: | 09/23/13 08:40:00 |
| <input type="button" value="Start Server"/> | |
| <input type="button" value="Stop Server"/> | |

Licensing Information

このページでは、AccessNow と Blaze のライセンス情報が表示されます。 *Connected to licensing server* の項目には、現在使用されているライセンス・サーバが表示されます。

注意 本番環境の VDI やターミナル・サーバ環境では、ライセンス・サーバは強固なシステム上で**一元管理**される必要があります。詳細については、セントラル・サーバの設定のセクションを参照してください。

デフォルトでは、Access Server は DNS lookup を使用して Licensing Server を特定します。使用される DNS エントリは、*ericom-license-server.<ドメイン名>* または *_ericom-license-server._tcp.<ドメイン名>* となります。DNS エントリが存在しない場合には、Access Server により同じコンピュータ上で実行されているライセンス・サーバへの接続が試行されます。

他の方法としては、*Licensing server address* 内の *Access Server Configuration* で、ライセンス・サーバのアドレスを明示的に指定します。ライセンス・サーバ・アドレスの変更後、*General* タブを使用して Access Server を再起動します。

有効なライセンスが見つからない場合、Access Server は猶予期間が終了するまで実行が可能となります。猶予期間の終了後、Access Server は、ユーザ・セッションを許可しなくなります。この「猶予期間」は 30 日間の期間内で最大 10 日間有効となります。



ライセンス・サーバのポートを変更する

ライセンス・サーバは、デフォルトでポート 8888 を介して通信します。同一システム上の他のアプリケーションがポート 8888 を使用している場合には、ライセンス・サーバのポート値をレジストリで変更することができます。レジストリ・エディタを使用して次に移動します。HKLM | SOFTWARE | Ericom Software | LicenseServer

文字列値を追加します。

Listening Port



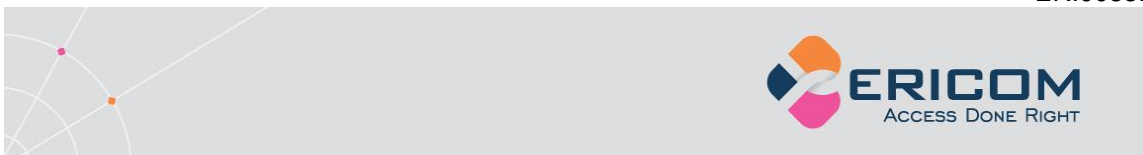
上記の例では、ポートが 9999 へと変更されています。値を設定した後、Ericom Licensing Server サービスを再起動します。カスタム・ポートを使用してセントラル・ライセンス・サーバに接続する各 Access Server において、アドレスの後ろにコロンを付けてポート値を指定する必要があります。例:

☐ Use DNS lookup
 ☒ Licensing server address:

ライセンスのアクティベーション

Licensing の下の Activation をクリックし、シリアル番号とアクティベーション・キーを製品の設定フィールドに入力します。

評価版で使用したインストールのアクティベーションには、目的の Client type を選択し、シリアル番号と key to send to Ericom の内容を記載し supportusa@ericom.com へ送信し、処理を依頼します。その後、アクティベーション・キーが返信されます。そのアクティベーション・キーを入力した後、Activate License ボタンをクリックします。ライセンスを有効にするために Access Server を再起動する必要はありません。



評価期間を延長するには、Ericom の営業担当者に *key to send to Ericom* の内容を送信し、処理を依頼します。依頼が承認された後、標準的な 30 日間の延長のキーが提供されます。

| | | | | | | | |
|--|-----------|-------------|---------------|--------------|----------|---------|----------|
| General | Licensing | Performance | Communication | Acceleration | Security | Logging | Advanced |
| <div>Information Activation</div> <div> Client type: <div> AccessNow AccessNow_VMwareView Blaze </div> </div> <div> License Description: License Status: Valid License Type: Concurrent Users Counting Mode: Permanent Expiration Date: Never Expires Number of Licenses: 10 Used Licenses: 0 </div> <div> If you have received a serial number from Ericom, please enter it into the field below before clicking the "Email to Ericom" button. </div> <div> Serial Number: <input type="text"/> </div> <div> Key to send to Ericom: <input type="text" value="CJ68ZM-797THY"/> <input type="button" value="Email Key To Ericom"/> </div> <div> Key received from Ericom: <input type="text"/> </div> <div> Copy the key received from Ericom Software into the form and click the "Activate License" button to activate the software license. </div> | | | | | | | |

Performance

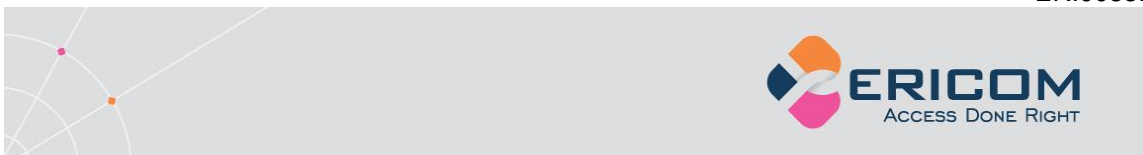
このページには現在のサーバのパフォーマンス統計が表示されます。

| | | | | | | | |
|--|-----------|-------------|---------------|--------------|----------|---------|----------|
| General | Licensing | Performance | Communication | Acceleration | Security | Logging | Advanced |
| <div>Server to Client communication</div> <div> Number of sessions: 0 Average compression ratio: 69 % Total data received from host: 5 MB Total data sent to client: 1 MB </div> <div> Real-time cumulative performance information for all sessions since Blaze Server was started. Counters are reset when the Blaze Server service is restarted. Display is automatically updated approximately once every 10 seconds. </div> | | | | | | | |

Communication

このページは、Access Server のリスニング・ポートと RDP を実行しているホストのアドレスを変更する機能を提供します。

デフォルト(8080)以外のリスニング・ポートを使用している場合、ポート番号を Access Server のアドレスまたは Blaze クライアントの Computer フィールドで明示的に指定する必要があります。(例: rdpdemo.ericom.com:22)



AccessNow Web クライアント: Ericom AccessNow Server:

Blaze クライアント: Computer:

接続先のシステムが Access Server を実行していない場合、RDP ホストのアドレスが使用されます。この場合では、Access Server はエンドユーザと接続先ホスト・システム間でゲートウェイのプロキシとして動作します。このタイプの設定により AccessNow と Blaze のパフォーマンスに悪影響が生じる場合があるため、お勧めしません。

両方の設定の変更には、サービスの再起動が必要です。(General タブから)

| | | | | | | | |
|---------|-----------|-------------|---------------|--------------|----------|---------|----------|
| General | Licensing | Performance | Communication | Acceleration | Security | Logging | Advanced |
|---------|-----------|-------------|---------------|--------------|----------|---------|----------|

Access Server port number:

Changing this setting will take effect only after the Access Server service is restarted.

Specifies the TCP/IP port on which the Access Server service listens for incoming connections. Do not use a port number which is already in use by some other service or application on the computer. If you do, Access Server service will not start.

Important: Access Server Clients automatically connect to port 8080 when using accelerated RDP. If a different port value is selected, that value must be explicitly specified in the Clients' host address field.

RDP host address:

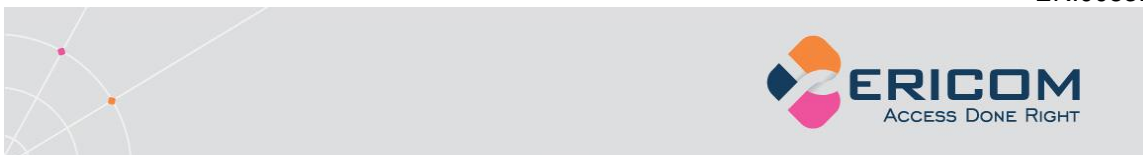
Changing this setting will take effect only after the Access Server service is restarted.

複数のネットワーク・カードを備えたマシンにて Access Server を実行している場合は、RDP ホストのアドレスを *localhost* から、システムに RDP アクセス可能なネットワーク・カードの IP アドレスまたは DNS アドレスへ変更します。

Acceleration

このページはアクセラレーション/品質レベルを強制的に適用し、動的圧縮を無効にする機能を提供します。Override client acceleration / quality settings チェックボックスがオンの場合、すべてのセッションで既存の設定が適用され、クライアントの設定は無視されます。この設定をオン、またはオフとする場合、変更を適用するためにサービスを再起動する必要があります。設定が有効にされている場合、アクセラレーション・レベルの変更にはサービスの再起動は必要ではありませんが、新たな設定を使用するにはアクティブ・ユーザの再接続が必要です。

Dynamic Compression はスクリーンの小さなグラフィカル・オブジェクト(ツールバーのアイコン、スタート・メニューのアイコン等)を識別し、Blaze の Quality 設定が Low の場合



には *High* のクオリティを使用し、Blaze の Quality 設定が *Low* より高くなっている場合には *Best* のクオリティを使用してオブジェクトを圧縮します。その他のグラフィカル・オブジェクトは選択された品質で圧縮されます。これにより、リモート・デスクトップのセッションでの高画質な画面表示を提供します。デフォルトでは、この機能は有効にされています。無効するには、「Use dynamic compression」ボックスをオフとします。

| | | | | | | | |
|---------|-----------|-------------|---------------|--------------|----------|---------|----------|
| General | Licensing | Performance | Communication | Acceleration | Security | Logging | Advanced |
|---------|-----------|-------------|---------------|--------------|----------|---------|----------|

☐ Override client acceleration / quality settings

Acceleration / Quality: Very Fast / Good Quality (recommended)

Enable in order to ignore the performance / image quality settings requested by the Ericom Access Server Clients. Instead, use the specified performance / image quality settings for all incoming accelerated connections.

☒ Use dynamic compression

Dynamic compression improves perceived display quality by utilizing lower compression settings for specific screen elements. Small but important screen elements, such as window titlebars and the Start Menu, use a higher quality setting, which is computed dynamically from the general image quality setting. Dynamic compression utilizes High quality when image quality is set to Low; and Best quality when the image quality setting is higher than Low.

Changing this setting may take effect only after the Access Server service is restarted.

Security

このページでは Access Server のセキュリティ設定を構成します。

| | | | | | | | |
|---------|-----------|-------------|---------------|--------------|----------|---------|----------|
| General | Licensing | Performance | Communication | Acceleration | Security | Logging | Advanced |
|---------|-----------|-------------|---------------|--------------|----------|---------|----------|

Ericom Access Server supports strong SSL encryption

Encrypt Access Server communication: Always

Inherit from Microsoft RDP (default)

By default Ericom Access Server uses the same security settings as Microsoft RDP - if RDP is encrypted then Access Server will be encrypted. If RDP is not encrypted then Access Server will not be encrypted either. Set to **Always** for Ericom Access Server to always encrypt regardless of the RDP settings.

Data transmitted from the clients to the server, including user credentials, is always encrypted regardless of Access Server and RDP security settings.

For best performance and lowest load on the server set the RDP Security Level to Low (for 2003/XP also set the Security Layer to RDP Security Layer). This setting can be changed using the RDS (TS) Session Host Configuration or using Local Computer / Group Policies. After performing this change, modify setting above to **Always** if encryption is required.

SSL Certificate

Friendly Name: _____

SAN: DNS Name: _____

Thumbprint: _____

Issued By: _____ Issued To: _____

Valid From: 2013/09/11 08:47:16 Valid To: 2014/09/11 08:47:16

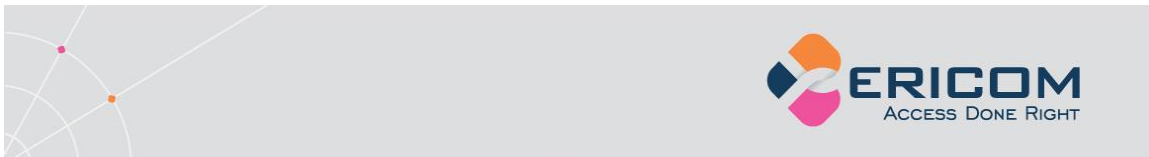
Change Certificate

To change the above certificate, enter a new certificate's thumbprint below (eg: _____).

Certificate Thumbprint: <Default> Restore Default

Note: this change will only take effect after you click apply AND restart Access Server.

Ericom Access は統合された *128-bit* SSL 暗号化を提供します。パフォーマンスを向上するには、ホストの RDP Security Encryption レベルを低に設定し、*Encrypt Blaze communication* を *Always* に変更します。この設定により、RDP 暗号化の代わりに



Ericom SSL 暗号化が使用されます。詳細については、このドキュメントの「*Ericom Optimization*」の章を参照してください。

カスタムまたは信頼された証明書を使用するには、証明書の拇印を *Thumbprint* のフィールドに入力し、*Apply* ボタンをクリックします。上の画像で例示されている黒いボックスのように、GUI に証明書のプロパティが表示されます。変更点を適用するためにサービスを再起動します。

注意 信頼された証明書をインストールする際、Access Server の DNS アドレスが証明書の名前と一致する必要があります。ワイルドカード証明書を使用する場合、ドメインが一致する必要があります。例えば、証明書が *.acme.com 用である場合は、サブ名は acme.com で終わる必要があります。

Logging

このページでは、特定のログ機能を有効化/無効化する機能が提供されます。Ericom 社のサポートは、診断を目的としてデバッグのログを要求することがあります。デバッグのログはここで有効にすることができます。

Advanced (管理者用)

このページは、システムのレジストリに保存されている高度な Ericom Access Server 設定へのアクセスを提供します。

Export Setting – Access Server のレジストリ・キー をユーザのホーム・フォルダ (例: マイ ドキュメント) にエクスポートします。

Import Settings – 以前保存した AccessNow Server のレジストリ設定をインポートします。

Advanced Configuration – regedit.exe を実行、Access Server のレジストリ・キーを開きます。デフォルトでは、デフォルトから変更された設定のみレジストリに保存されます。



拡張されたセッション・スクリプト

この製品は、RDP ホストにおける Windows のビルトインのスクリプト機能を拡張します。このメカニズムにより、セッションの開始時や終了時、接続時や切断時に特定のコマンドを実行する機能のレイヤーが追加されます。

起動後のログイン・スクリプト (_login)

適切な拡張子を使用して、`_login` という名前のファイルを作成します。例えば、「`_login.vbs`」という名前のスクリプト・ファイルや、「`_login.exe`」という名前の実行可能ファイルなどです。作成したファイルを、Access Server インストール・フォルダ内に `script` という名前のフォルダ内に保存します。このフォルダが見つからない場合には、フォルダを作成します。このスクリプトは、TS/RDS セッションが スタートアップ フォルダを処理した後、新しいセッションの開始時に実行されます。

起動前のログイン・スクリプト (__login)

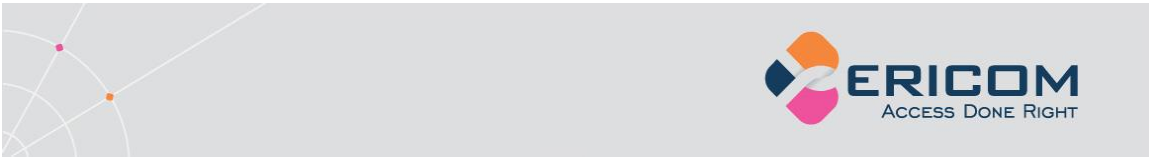
「`_login`」と同様、「`__login`」はセッションの開始時に実行されますが、こちらは TS/RDS が スタートアップ フォルダを処理する前に実行されます。

セッション接続時のスクリプト (_connect)

適切な拡張子を使用して `_connect` という名前のファイルを作成し、Access Server インストール・フォルダ内の `script` という名前のフォルダに保存します。このフォルダが見つからない場合には、フォルダを作成します。このスクリプトは既存の TS/RDS セッションへの接続時に実行されます。

セッション切断時のスクリプト (_disconnect)

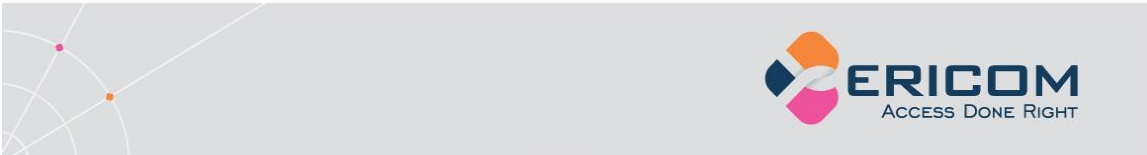
適切な拡張子を使用して `_disconnect` という名前のファイルを作成し、Access Server インストール・フォルダ内の `script` という名前のフォルダに保存します。このフォルダが



見つからない場合には、フォルダを作成します。このスクリプトは、TS/RDS セッションからの切断時に実行されます。

新しいファイルを作成する VB スクリプトのサンプル

```
Set objFileToWrite =  
CreateObject("Scripting.FileSystemObject").OpenTextFile("newfile.txt",2,true)  
objFileToWrite.WriteLine("hello world")  
objFileToWrite.Close
```



3. ライセンスの概要

評価(デモ)期間

各 Access Server のインストールには、同一のデバイスにインストールするライセンス・サーバが含まれています。デフォルトでは、ライセンス・サーバには 30 日間の検証期間が含まれています。この期間中、ライセンス・サーバは最大 50 の同時ユーザ接続を許可します。評価期間は、Ericom 営業担当に連絡し延長することが可能です。

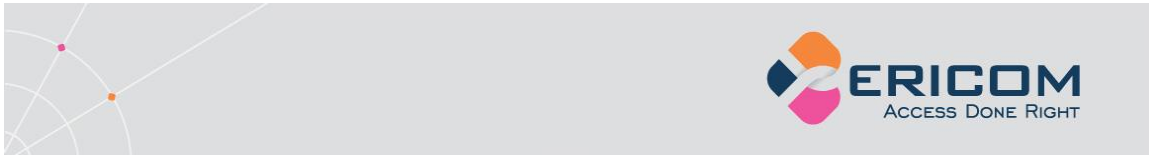
ライセンス・モード

Ericom のライセンス・サーバのサービスは Ericom AccessNow と Blaze のライセンスを管理します。Ericom Blaze クライアントや AccessNow を使用したすべての接続に Ericom のライセンスが必要です。1 つのライセンス・サーバで複数の Access Server のライセンスを管理することが可能です。

ライセンスには 2 つのモードがあります。

同時ユーザ: 同一のライセンス・サーバを使用するすべての Access Server へ同時に接続しているアクティブ・ユーザ数により、Ericom のライセンスがカウントされます。このライセンス・モードでは以下の点が考慮されます:

- 同一ユーザが 1 つのクライアント・デバイスで開く Ericom のセッション数に対し、ライセンスの限度は適用されません。ユーザが 1 つのデバイスで開くセッション数に関わりなく、ライセンスが 1 つだけ使用されます。
- 同一ユーザが複数のデバイスから複数の Blaze セッションを同時に使用する場合、デバイスの数と同じ数のライセンスが使用されます。
- 複数のユーザが同じデバイスを使用する場合(例: Mac のファスト・ユーザ・スイッチの利用)、アクティブな Blaze セッションを使用するユーザと同じ数のライセンスが必要です。



指定ユーザ: 同一ライセンス・サーバを使用するいずれかの Access Server に接続したところのある登録名の総数により、Ericom のライセンスがカウントされます。このライセンス・モードでは以下の点が考慮されます:

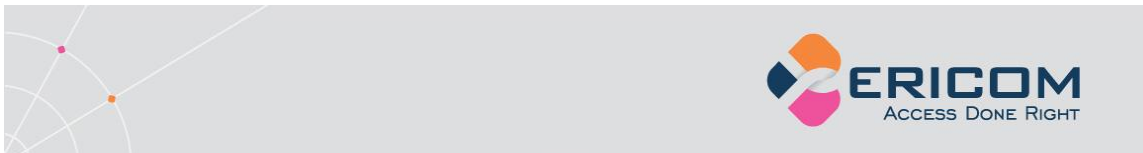
- ライセンスは、ユーザが初回に使用した任意の名前に割り当てられます。
- ユーザ名が 14 日間で一度も Blaze クライアントの実行に使用されなかった場合、ライセンスは自動的にリリースされます。その名前に割り当てられたライセンスは、14 日間の期間が経過する前にリリースすることはできません。
- Access Server を RDP ホストにインストールする必要があります。(PtTSAgent もこの方法を必要とするため) Access Server がゲートウェイとして使用されている場合、同時ユーザのライセンスのみが利用可能となります。

セントラル・サーバの設定

Access Server では、リモート・ライセンス・サーバの使用を設定し、複数の Access Server でライセンス・プールを共有することが可能です。

例えば、10 ユーザのライセンスがセントラル・サーバでアクティベートされたとします。この場合、ネットワーク上のすべての Access Server はセントラル・サーバ上のライセンス・プールを使用するようになります。混乱や障害を避けるため、2 つ以上の RDP ホスト(リモート・デスクトップ・サービス、ターミナル・サーバ、VDI 等)が存在する環境では、ライセンスのホストから利用可能な専用のサーバを設置することをお勧めします。セントラル・ライセンス・サーバを使用する際のガイドラインは以下のとおりです:

- ライセンスの配布を可能にするため、セントラル・ライセンス・サーバは高可用性サーバにホストする必要があります。
- VDI 環境では、クローンのデスクトップまたはゴールド・イメージのテンプレートにライセンス・サーバをインストールしないでください。ライセンス・サーバはシステム変更が発生しない静的なマシンにインストールする必要があります。



- 2つ以上のサーバの存在する TS/RDS 環境では、可能な場合はターミナル・サーバへのライセンス・サーバのインストールを避けてください。
- サーバの再起動や中断を最小限に抑えます。オフピーク時にアップ デートを適用してください。

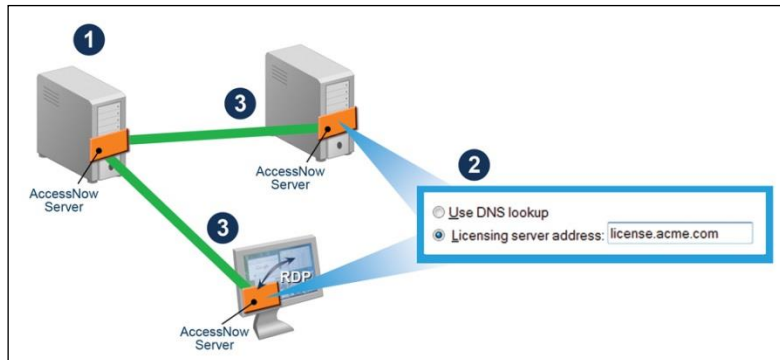
有効なライセンスが見つからない場合、Access Server は猶予期間が期限切れとなっていなければ実行を続けることが可能となります。猶予期間の終了後、Access Server は、ユーザ・セッションを許可しなくなります。この「猶予期間」は 30 日間の期間内で最大 10 日間有効となります。ライセンス・サーバにて問題が生じた場合には、猶予期間が終了する前に解決する必要があります。

実装

ステップ 1: 任意のシステム上に Access Server をインストールし、アクティベートします。(Licensing | Activation タブを使用) Access Server が実行されますが、このインストールの主な目的は、セントラル・ライセンス・サーバを作成することです。システムの Windows ファイアウォールで受信用ポート 8888 を有効にします。セントラル・ライセンス・サーバとそのサーバに接続するすべての Access Server 間のネットワークでこのポートが利用可能であることを確認します。

ステップ 2: ライセンス用にセントラル・ライセンス・サーバのアドレスを使用するようにすべての Access Server を設定します。セントラル・ライセンス・サーバのアドレスを設定するには 2 つの方法があります。詳細は次のセクションを参照してください。

ステップ 3: Access Server のサービス起動後、Ericom AccessNow または Blaze のセッションが確立されます。その際、事前設定された セントラル・ライセンス・サーバに接続します、ライセンスを取得します。



セントラル・ライセンス・サーバを使用するには 3 つの方法があります。

DNS Lookup を使用する

Use DNS lookup

この設定を使用する場合、Access Server は一緒にインストールされているローカルのライセンス・サーバを使用する前に、セントラル・ライセンス・サーバを発見することを常に試みます。セントラル・ライセンス・サーバが発見され使用されると、ローカルのライセンス・サーバは無視されます。Ericom Access Server サービスが起動する際、以下の手順でセントラル・ライセンス・サーバのアドレス(IP または DNS 名)を検索します。

1) DNS-SRV エントリ

Access Server は 次の DNS-SRV エントリでライセンス・サーバのアドレスを検索します: `_ericom-license-server._tcp.<ドメイン>`

例: `_ericom-license-server._tcp.ericom.local`

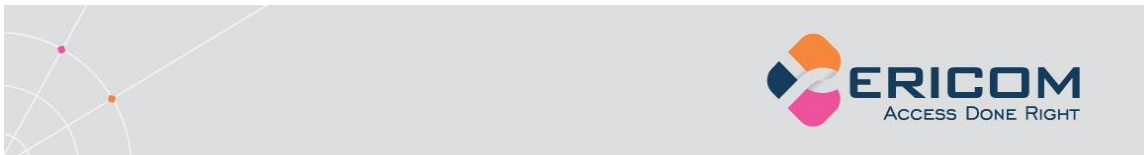
2) DNS エントリ

DNS-SRV レコードが存在しない場合、Access Server は 次の DNS エントリでライセンス・サーバのアドレスを検索します: `ericom-license-server.<ドメイン>`

例: `ericom-license-server.ericom.local`

3) ローカルホスト

DNS エントリが存在しない場合、ローカルにインストールされたライセンス・サーバが使用されます。(例: `localhost` がライセンス・サーバとして使用されます)



手動登録

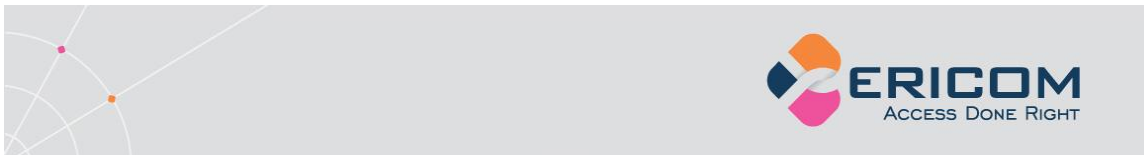
Licensing server address

管理者は、Access Server 設定アプリケーションの Licensing ページから、使用されるライセンス・サーバを明示的に指定することも可能です。

☒ **Licensing server address:**

PowerTerm WebConnect との使用

Ericom PowerTerm WebConnect ブローカーを使用している場合には、すべてのライセンスはブローカーから取得されます。Access Server によるライセンスは無視され、有効期限切れのメッセージはブローカーを介した接続には適用されません。



4. ERICOM BLAZE CLIENT FOR WINDOWS

Ericom Blaze クライアントは、Ericom Access Server を実行中で Blaze が有効化された Access Server に接続します。

注意 Ericom Blaze クライアントは、以前のバージョンと下位互換性のない場合があります。以前のバージョンの Blaze を使用している場合、最適な結果を得るために、すべての Blaze クライアントとサーバ・コンポーネントを同じバージョンにアップグレードしてください。

Ericom Blaze クライアントの要件

Ericom Blaze クライアントは、ユーザのデバイスにインストールされます。

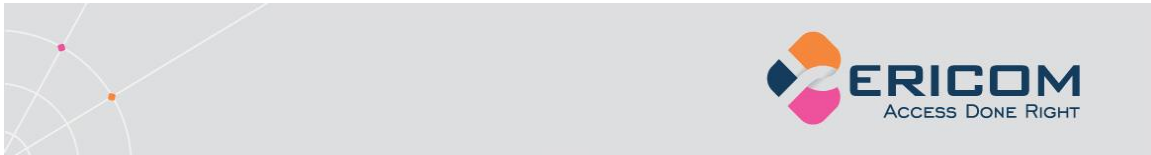
- サポートされているプラットフォームの一覧については、セクション 1 の「概要」を参照ください。
- ハードディスク上の 30 MB の空き容量
- MMX 対応の CPU

Ericom Blaze クライアントをインストールする

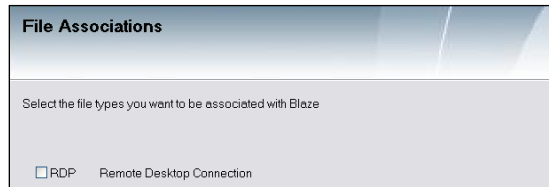
- Blaze インストーラにより、以前のインストールが上書きされる場合があります。
- *Ericom Blaze Client.msi* を実行します。
- License Agreement を確認し、同意します。 *Next* をクリックします。

☐ I Do Not Agree ☒ I Agree

- *Next* をクリックし、Blaze クライアントを使用するために **.rdp** ファイルを関連付けます。システムに **.blaze** 拡張子が自動的に追加されます。関連付けられて

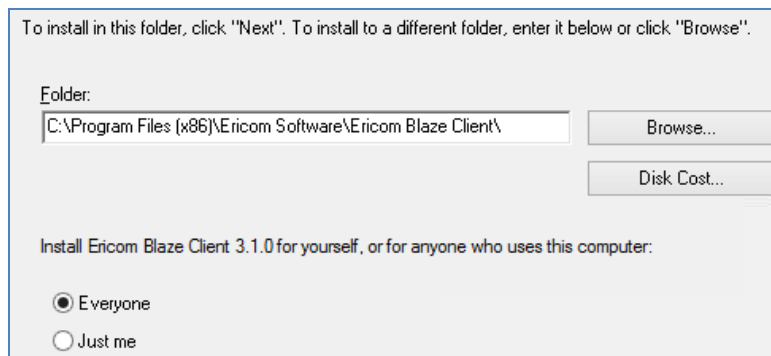


いるファイルをダブル・クリックすると、ファイルの設定を使用して Blaze クライアントが起動します。



ヒント .rdp ファイルを使用して Blaze セッションを RDP クライアント(MSTSC.exe)に自動接続するには、まず最初に Blaze クライアントを使用して .rdp ファイルを保存する必要があります。Blaze クライアントを使用して保存する前に .rdp ファイルを起動した場合、Blaze クライアントユーザ・インターフェースが開きます。Blaze クライアントを使用して .rdp ファイルを保存するとすべての設定が保持され、今後は起動時に自動接続するようになります。

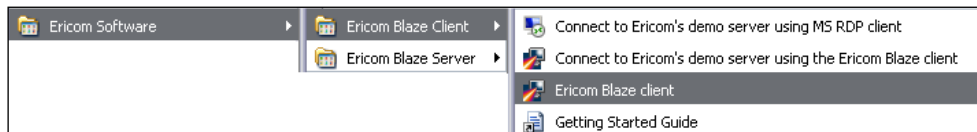
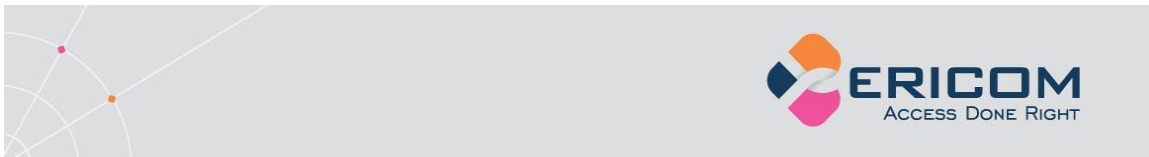
- インストール場所を選択し、Ericom Blaze を利用できるユーザを指定します。



- *Next* をクリックしてインストールを開始し、完了するのを待ちます(セキュリティ昇格を受け入れるよう要求される場合があります)。
- 終了のプロンプトが表示されたら *Close* をクリックすると、Blaze クライアントが使用できるようになります。

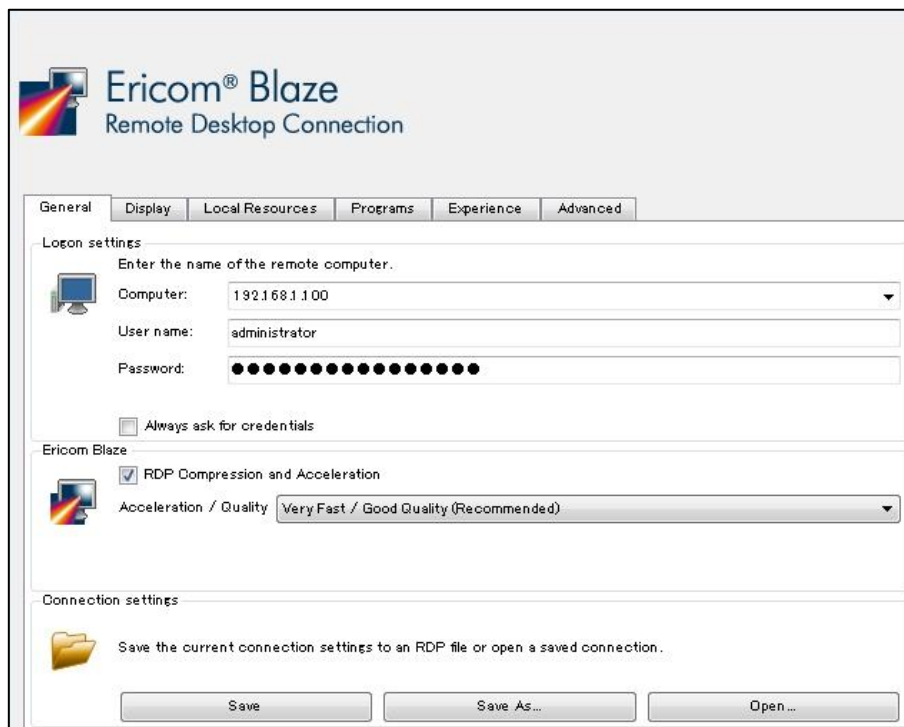
Ericom Blaze Client for Windows を使用する

インストールが完了すると、スタート・メニューまたはデスクトップアイコンから Ericom Blaze クライアントを起動できます。

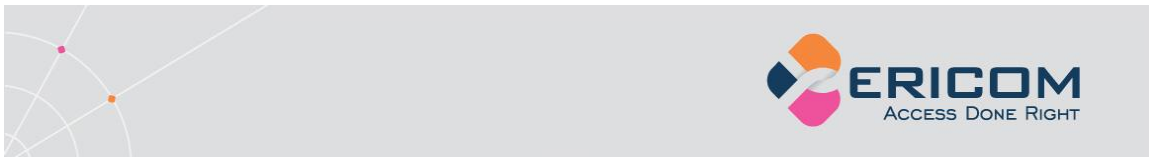


.blaze 拡張子を持つ構成ファイルをダブル・クリックすることでも、Ericom Blaze クライアントを起動可能です。この方法では、構成ファイルで指定された設定を使用し Blaze クライアントがすぐに接続します。構成のユーザ・インターフェースは表示されません。 .blaze ファイルは、「blaxe.exe」実行可能ファイルのパラメータとしても使用できます。

「General (全般)」タブの設定



Computer(コンピュータ) Ericom Access Server を実行しているホストまたは任意の標準 RDP ホストのアドレスを入力します(ホスト名または IP アドレス)。デフォルトでは、ポート番号が指定されていない場合はポート 3399 が Blaze のアクセス対象となる接続に使用され、ポート 3389 が通常の RDP に使用されます。

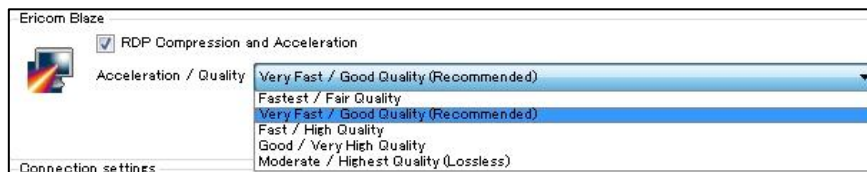


別のポート番号を指定するには、「:<ポート番号>」をアドレスの末尾に追加します。ポート 23 を使用する例: rdpdemo.ericom.com:23

User name(ユーザ名) / Password(パスワード) (オプション項目) - 宛先ホストにログインするための資格情報を入力します。ホストのログイン・ダイアログを回避するために、両方を入力します。

RDP Compression and Acceleration(RDP 圧縮とアクセラレーション) - 圧縮とアクセラレーションを無効にするには、このボックスをオフにします。無効にした場合、RDP が使用されます。

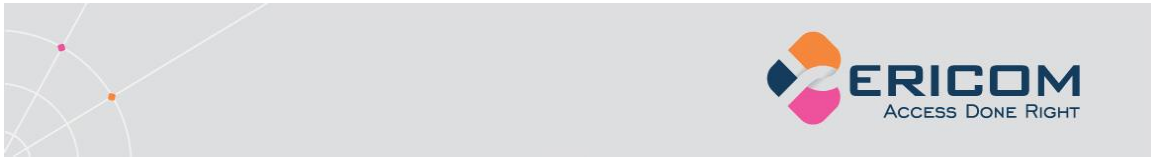
Ericom Blaze Acceleration(アクセラレーション) / Quality(画質) 設定



- **Moderate(低速) / Highest(最高画質)** - 最高の品質 (可逆圧縮)。正確な画像レンダリングが必要な場合に適しています。
- **Good(中低速) / Very High(高画質)** - 画像品質のロスを最小限に抑えます。
- **Fast(中速) / High(中画質)** - 若干品質が低下し、「中低速」よりも若干高速化します。
- **Very Fast(高速) / Good(中低画質)** - バランスの取れた品質とパフォーマンスを提供し、ほとんどのケースに最適です。
- **Fastest(最高速) / Fair(低画質)** - 品質は低下しますが、パフォーマンスを向上します。帯域幅が限られている場合に適し、特にグラフィックを多用するアプリケーションを使用する場合に有効です。

Connection Settings(接続設定):

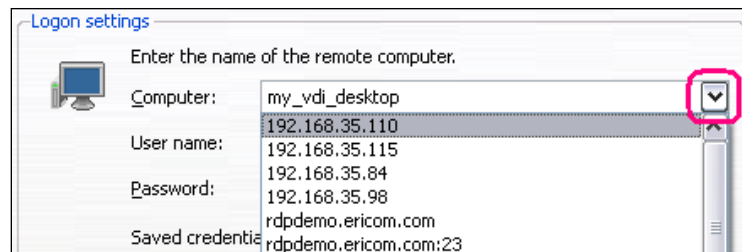
- **Save(保存)** - 読み込みした元のファイルに現在の設定を保存します。設定をファイルから読み込んでいない場合、「Save As」(下記を参照)と同じ動作をします。



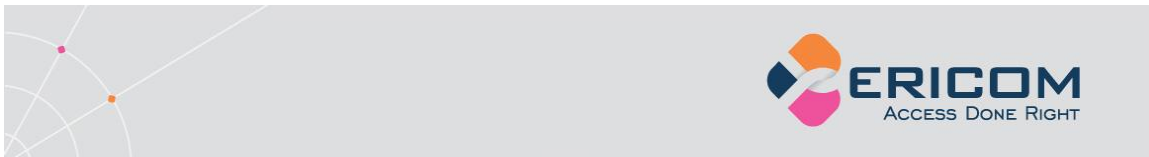
- **Save As...(名前を付けて保存)** - 新しい「.blaze」ファイルに設定を保存します。「.rdp」拡張子のファイルへの保存も可能です。
- **Open...(開く)** - 既存の「.blaze」ファイルから設定を読み込みます。「.rdp」拡張子のファイルから設定を読み込むことも可能です。

以前の設定にアクセスする

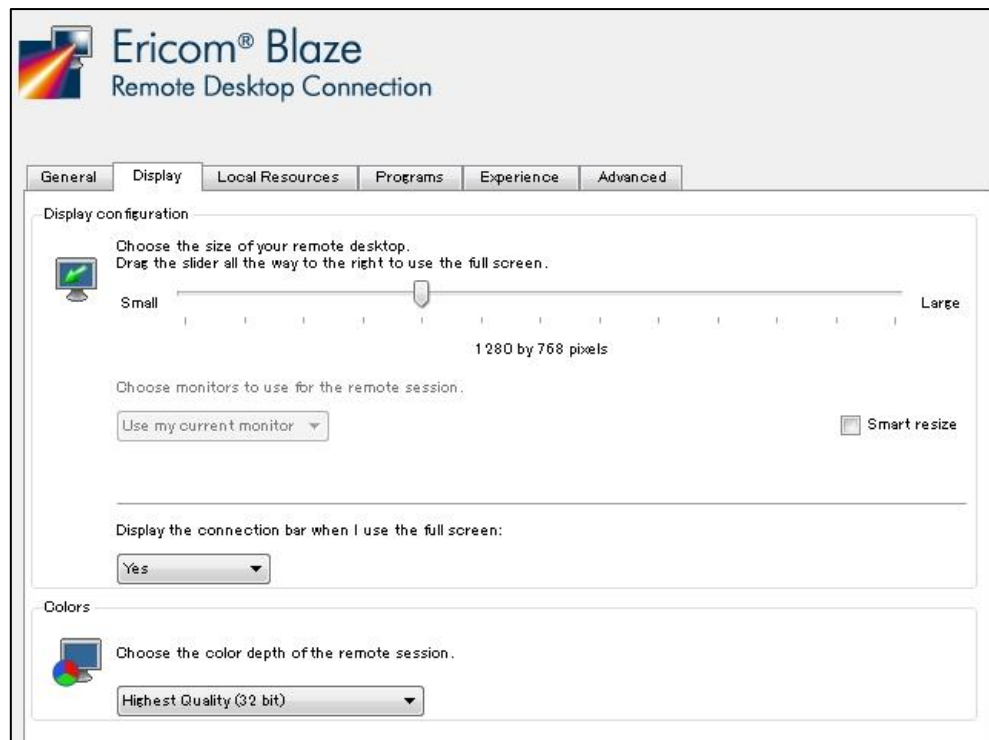
- 過去のすべての有効なセッションの設定は、再利用のために自動的に保存されます。
- 以前の設定を使用するには、**Computer** 名の右側のドロップダウン矢印アイコンをクリックします。セッションは、使用順に表示され、最近使用したセッションが上部に表示されます。表示例:



Ericom Blaze セッションを開始するためのすべてパラメータを設定後、**Connect** ボタンをクリックします。



「Display (表示)」タブの設定

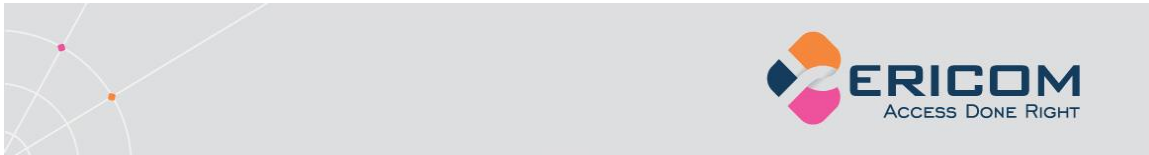


表示設定 - Ericom Blaze セッションの画面サイズを指定します。フルスクリーン・セッションでは、ローカルの画面全体が使用されます。

Choose monitors to use for the remote session(リモートセッションに使用するモニタを選択してください)

- 「Use my current monitor(現在の自分のモニタを使用する)」 - 現在のモニタ(Blaze ダイアログが表示されるもの)のみを Blaze セッションで開きます。
- 「Use all my monitors(自分のすべてのモニタを使用する)」 - すべてのモニタを Blaze セッションで開きます。

Windows 7、8、Windows Server 2008 R2 または Windows Server 2012 に接続する場合、RDP Multimon 機能が使用されます。この機能により、ローカル・モニタに正確にマッチする仮想モニタがリモート・セッション内に作成されます。



それ以前のバージョンの Windows に接続する場合、マルチモニタ・スパニング機能が使用されます。この機能により、すべてのローカル・モニタをカバーする単一のリモート・モニタが作成されます。これは「MSTSC.exe」の「/span」フラグと同様です。使用されているモニタ数に関係なく、デスクトップの最大解像度は 4096x2048 となります。このモードでは、モニタ内に適切に表示されるよう、Ericom Blaze により自動的にウィンドウのサイズと大きさが調整されます。例えば、アプリケーション・ウィンドウを最大化した場合、プライマリ・モニタのみがカバーされます。

- 「Span all my monitors(すべてのモニタを結合する)」 - Blaze セッションによりすべてのモニタが開かれます。

マルチモニタ・スパニング機能により、すべてのローカル・モニタをカバーする単一のリモート・モニタが作成されます。この機能はすべてのオペレーティング・システム向けに実装されています。

- 「Use Monitor X(モニタ X を使用)」 - 「X」として識別されたモニタが Blaze セッションで開かれます(X はモニタの数値識別子を表します)。

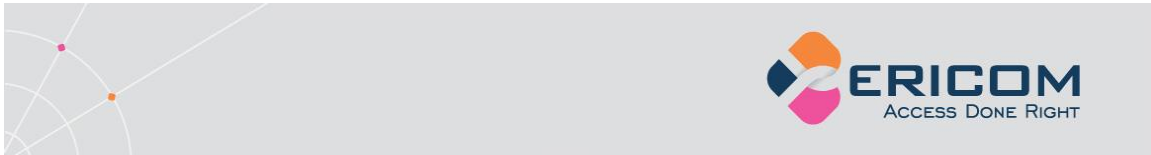
Display the connection bar when I use the full screen(フルスクリーンの使用時に接続バーを表示する)

フルスクリーン・モードで RDP ウィンドウの上部に表示される Ericom Blaze RDP バーの設定は、このドロップダウン・リストで行います。



Blaze のフルスクリーン・モードには以下の 3 つのモードがあります:

- 「Yes(はい)」 - 接続バーが利用可能な状態で、自動非表示モードで開始されます (デフォルト) で「ピン留め」モードへの変更が可能です。
- 「Yes(はい) (Pinned(ピン留め))」 - 接続バーが利用可能な状態で、固定モードで開始されます。固定を解除し、自動非表示モードへ変更することが可能です。
- 「No(いいえ)」 - 接続バーは利用できません。この設定は、キオスク端末やシンクライアント環境に役立ちます。



Colors(カラー) - Ericom Blaze の色深度を指定します。ホスト・プラットフォームにより提供される最高品質の色設定を使用するには、それが 32 ビット・カラーかそれ以下かに関わらず、32 ビット・カラーを指定します(例えば、Windows 2003 では 24 bit が使用されます)。

注意 Windows 2003 SP2 サーバに接続する際、クライアントのデスクトップ解像度が非常に大きい場合、色深度が下げられます。これを解決するには、Microsoft Hotfix を利用できます。詳細については、「テクニカル・サポート」を参照ください。

「Local Resources (ローカルリソース)」タブの設定

RemoteAudio(リモートオーディオ) - Ericom Blaze セッションのオーディオ設定を指定します。

注意 帯域幅の限られた接続や高レイテンシの接続では、オーディオ品質が低下する場合があります。

Keyboard(キーボード) - Windows キーの組み合わせの設定を指定します。

Local devices and resources(ローカルデバイスとリソース) 「Clipboard/クリップボード」 - テキストとイメージのクリップボード・リダイレクトを有効にします。ファイルのコピー & ペーストはサポートされていません。

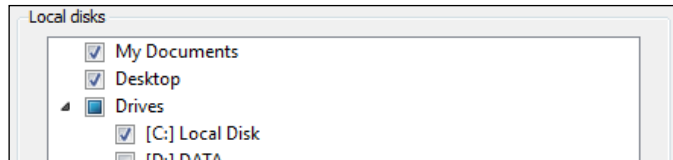
Local devices and resources(ローカルデバイスとリソース) 「Printers(native drivers)/プリンタ (ネイティブドライバ)」 - 標準 RDP 印刷リダイレクトを有効にします。標準 RDP 印刷リダイレクトを有効にするには、ホストとクライアントにプリンタ・ドライバをインストールする必要があります。

Local devices and resources(ローカルデバイスとリソース) 「Printers(native drivers)/プリンタ (汎用ドライバ)」 - ビルトインのユニバーサル・プリンタを有効にします。ユニバーサル・プリンタの詳細については、次のセクションを参照ください。

リモート・ホスト上の ローカル・ディスクのマッピング を指定するには、More devices...(その他のデバイス) をクリックします。マイドキュメントや ローカル・ユーザ

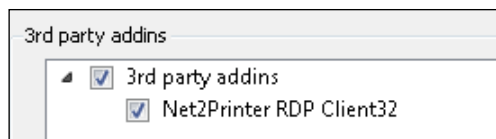


のデスクトップなどの特別なフォルダをマッピングし、セッションのアクティブ時にプラグインのドライバのマッピングを有効化することが可能です。



3rd party addins...(サードパーティのアドイン) - 32 ビットのサード・パーティ RDP アドインを有効にします(例: 汎用ドライバ印刷のリダイレクト対応)。Blaze では 32 ビット・ベースのアドインのみがサポートされ、x64 ベースのサード・パーティ・コンポーネントはサポートされていません(例: triCerat の x64 Screwdrivers クライアント)。x64 システムでは、32 ビット・バージョンのアドインを使用してください。

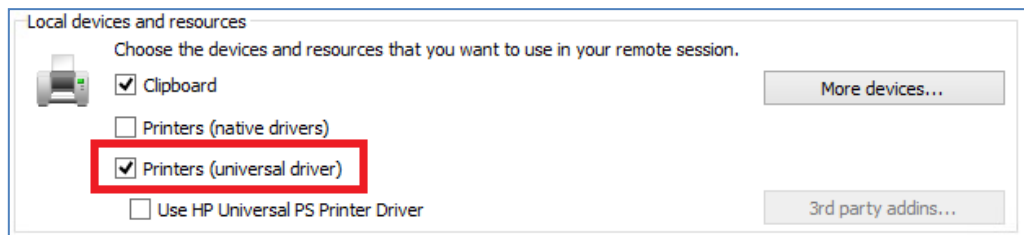
クライアント・システム上にサード・パーティのアドインが適切にインストールされていない場合、アドインを選択する画面は Blaze に表示されません。サポートされているサード・パーティ・ソリューションの詳細については、Ericom (sales@ericom.com) までお問い合わせください。

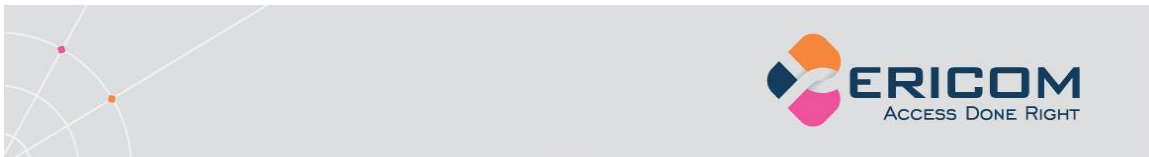


ビルトインの汎用ドライバ印刷

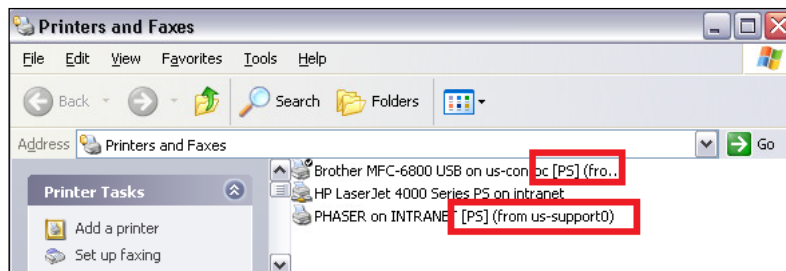
Ericom Blaze では、汎用ドライバ印刷機能がサポートされています。ビルトインの汎用プリンタは PostScript をベースにしており、リモートで実行された印刷ジョブをローカル・プリンタにリダイレクトします。汎用プリンタの使用を有効にするには、

「Printers(universal drivers) / プリンタ (汎用 ドライバ)」オプションをオンにします。



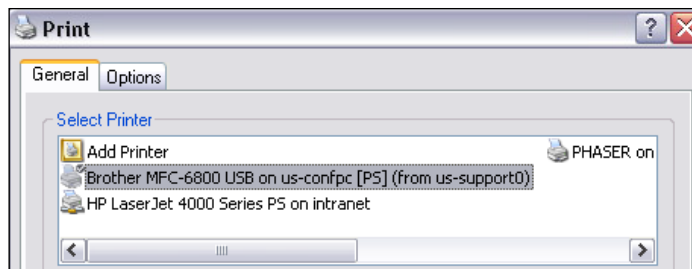


Blaze RDP セッションでは、リモート・デスクトップ上で設定された他のプリンタと並んで、リダイレクトしたプリンタが表示されます。リダイレクトしたプリンタは、ラベルのコンピュータ名に「[PS]」という文字が追加されます。



注意 印刷ジョブには、汎用 HP PostScript ドライバが使用されるため、一部のプリンタ特有の機能は使用できない場合があります(例: 両面印刷)。プリンタ特有の機能をサポートするには、サード・パーティの印刷ソリューションまたは標準 RDP 印刷(RDP ホストにプリンタ・ドライバを読み込む)の使用を検討してください。

リダイレクトしたプリンタを使用して印刷するには、アプリケーションの印刷 ダイアログが表示された際に、目的のプリンタを選択します。

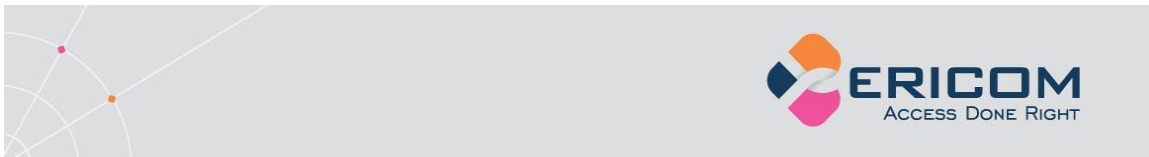


Windows 8 または 2012 の RDP ホストでの汎用ドライバ印刷

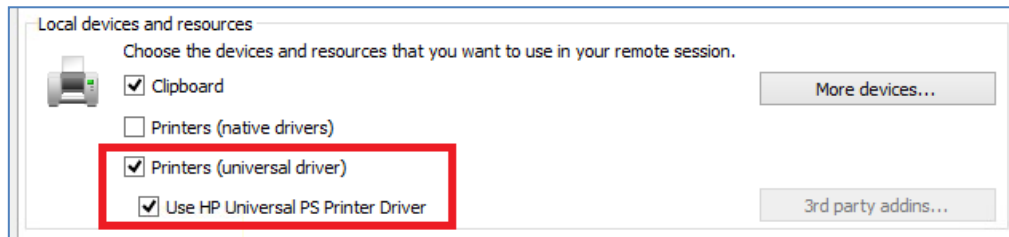
Windows 8、2012、2012 R2 オペレーティング・システムをサポートするために、HP Universal PS ドライバが必要です。HP の Web サイトから適切なドライバをダウンロードしてください。

<http://h20566.www2.hp.com/hpsc/swd/public/readIndex?sp4ts.oid=4157320>

HP Universal PS Driver をインストール後、Blaze クライアントを起動します。Local Resources(ローカルリソース) タブに移動し、「Printers(universal driver) (プリンタ 汎



用ドライバ))」と「Use HP Universal PS Printer Driver (HP Universal PS Printer Driver
を使用)」の両方をオンにします。

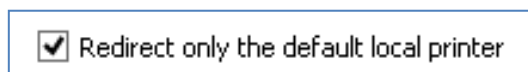


次にユーザがログインした際に Ericom プリンタが表示されます(セッションのプリンタ
が有効化されている場合)。この時点でプリンタ・ドライバは RDP ホスト・システム上
に存在するため、HP Universal プリンタ のすべてのインスタンスが Windows の プリン
タ メニューから削除される可能性があります。

注意 Windows 2008、2008 R2、Windows 7 オペレーティング・システムでは、HP
Universal PS Printer ドライバは 2 番目のオプションとして使用される場合がありま
す。デフォルトの汎用プリンタで適切な印刷が実行されない場合、HP ドライバを試
してください。

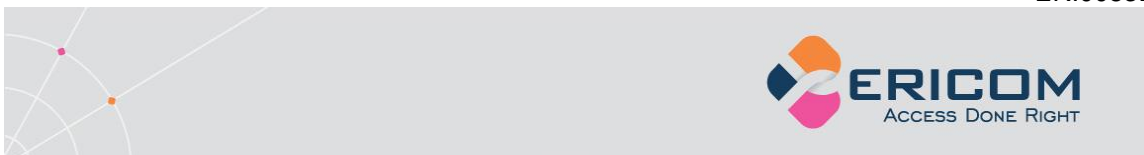
デフォルトのローカルプリンタのみをリダイレクト

RDP プリンタ・リダイレクトには、リダイレクトされたすべてのプリンタを表示する時
間が必要です。リモート・セッションでデフォルトのローカルプリンタのみが必要な場
合、「Redirect only the default local printer(デフォルトのローカルプリンタのみをリダイ
レクト)」を選択します(他のすべてのプリンタはリダイレクトされなくなります)。



デフォルトのリモートプリンタを設定

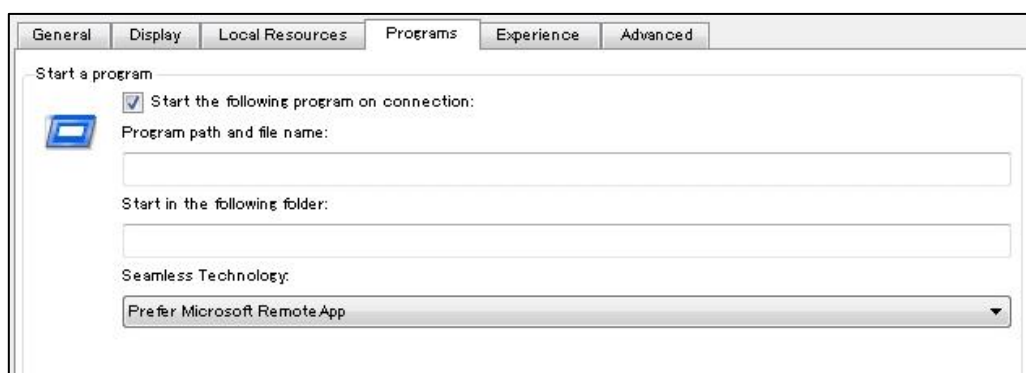
この設定がオンの場合、デフォルトのローカル・プリンタはデフォルトのリモート・プ
リンタとなり、リモートのデフォルト設定をすべて上書きします。



この設定がオフの場合、すべてのデフォルトのリモート・プリンタはデフォルトのままとなり、デフォルトのローカル・プリンタはプリンタの一覧から使用可能な別のプリンタとなります。

☒ Set the default remote printer

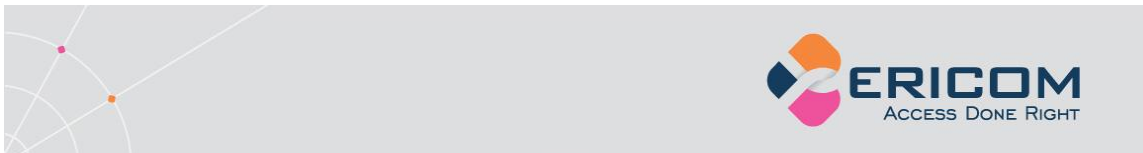
「Programs(プログラム)」タブの設定(シームレス・アプリケーション)



Ericom Blaze シームレス アプリケーションは、ローカル・アプリケーションとしてユーザのデスクトップ上に表示されるリモート・アプリケーションです。リモート・デスクトップは表示されません。これにより、ユーザのローカル・アプリケーションと並べてリモート・アプリケーションを表示することができます。シームレス・アプリケーションは、Blaze クライアントを介したアクセラレーション有り/アクセラレーションなしのモードでサポートされています。アプリケーションが起動されるホスト・システム上に Access Server が必要です。

接続時に次のプログラムを起動する をオンにし、シームレス・アプリケーションとして起動するプログラムのパスと開始するフォルダを指定します。アプリケーションのパスは、リモートシステム上のパスを入力してください。ローカル(ユーザ)システム上のアプリケーション・パスを入力しないでください。

2008 R2 または 2012 RDS サーバでは、シームレス・ウィンドウを使用するために、RemoteApps 機能を有効にする必要があります。ただし、Access Server はビルトイン



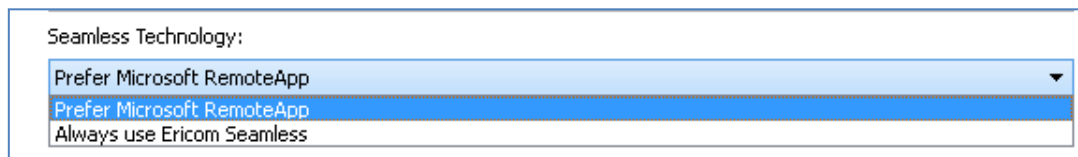
の PtTSAgent コンポーネントを使用してリクエストされたアプリケーションを起動するため、アプリケーションを RemoteApp のリストに手動で追加する必要はありません。

ヒント Blaze シームレス・アプリケーションを Microsoft RemoteApp の代替として使用できます。Blaze 設定ファイルを使用して、Access Server を実行中のリモート・ホストからシームレス・アプリケーションを起動できます。ユーザのデスクトップ上に Blaze アイコンを配置することで、Blaze が有効なアプリケーションにユーザが簡単にアクセスできます。

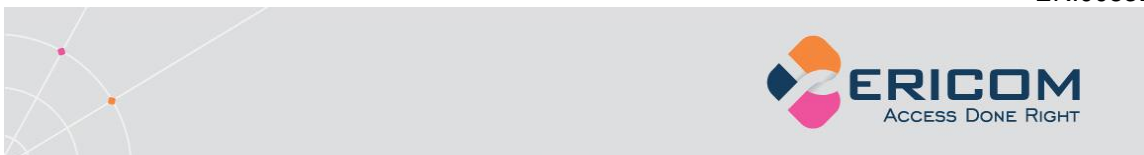
アイコンのサンプル:



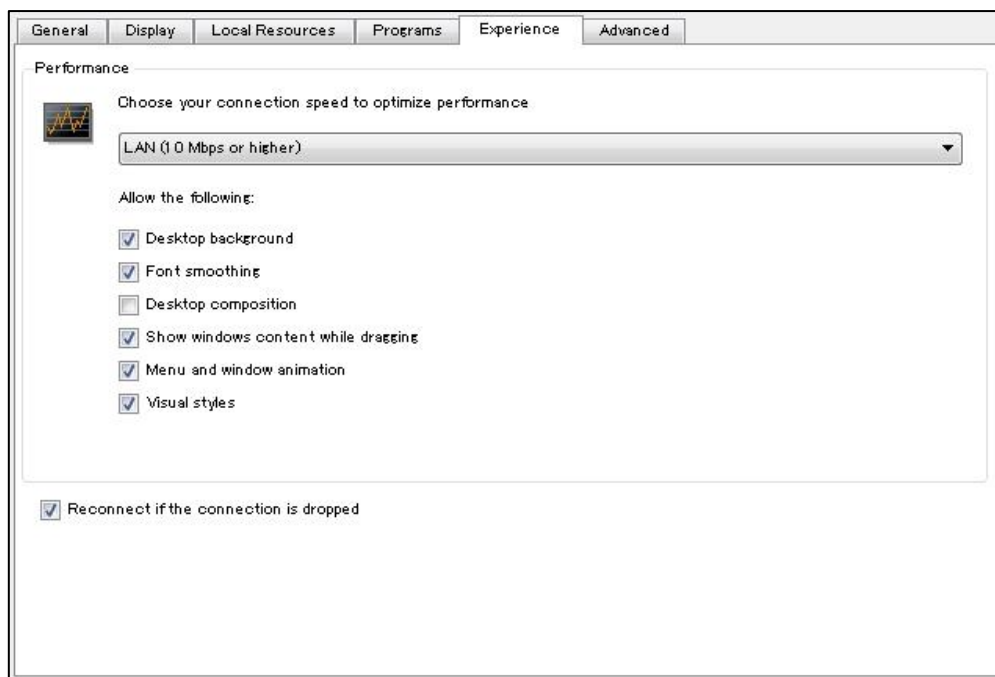
Ericom Blaze では、2 種類の シームレス・エンジンがサポートされています。Ericom のエンジンと Microsoft のエンジンです。特定のアプリケーションは片方のエンジンでの表示が優れている場合があるため、選択したエンジンが問題を引き起こしている場合、代替設定を使用します。



注意 オペレーティング・システムの制約により Microsoft RemoteApp 機能が使用できない場合、Ericom Blaze には Ericom Seamless が使用されます。



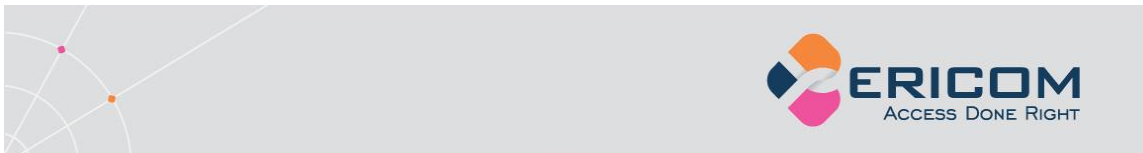
「Experience(エクスペリエンス)」タブの設定



最適なパフォーマンスの接続速度を選択する ドロップダウン・ボックスをクリックし、ユーザのネットワーク速度に最適な設定を選択します。セッションの機能は、各チェックボックスをオフにすることで個別に無効にできます。

注意 *Show window content while dragging*(ドラッグ時にウィンドウの内容を表示) を選択する場合、RDP ホストでもこの設定を有効にする必要があります。この設定の方法はオペレーティング・システムにより異なるため、設定の手順を見つけるには、「*Show window content*”(ドラッグ時にウィンドウの内容を表示)」をインターネット検索してください。

- *Reconnect if the connection is dropped*(接続が中断された場合に再接続する) - ネットワークの停止により Blaze セッションが中断された場合の自動的な再接続を有効にします。



「Advanced(詳細)」タブの設定

Ericom Secure Gateway

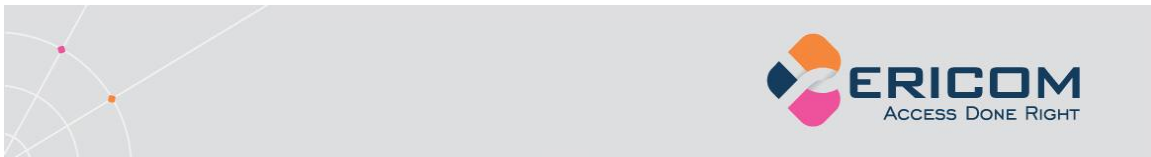
ユーザの接続に Ericom Secure Gateway を使用する場合、*Connect using Ericom Secure Gateway* (Ericom Secure Gateway を使用して接続) チェックボックスをオンにします。Ericom Secure Gateway サーバのアドレスを入力します。ポートを明示的に指定しない場合、デフォルトの 443 が使用されます。カスタム・ポートを指定するには、以下の記入例のように「:」を入力し、アドレスの後にポート値を入力します。Ericom Secure Gateway のインストールと設定については、「Ericom Secure Gateway 管理者用マニュアル」を参照ください。

Secure Gateway にログインするにはユーザ・アカウントが必要です。このユーザ・アカウントは、手動で入力するか、Blaze クライアントに保存されている資格情報から渡すことができます。

ゲートウェイとしての Access Server の使用

Access Server は、RDP ホストへのゲートウェイ・プロキシとして動作することができます。これは、RDP ホスト上にサード・パーティのコンポーネントをインストールできない状況で役立ちます。

Access Server ゲートウェイを有効にする際、(エンドユーザ・のマシンからではなく)Access Server から認識可能なコンピュータ・アドレスの値を入力します このアドレ



スは、ping コマンドや telnet コマンドを介して Access Server システムからアクセス可能であることが必要です。

Access Server をゲートウェイとして使用する場合、複数ユーザにとっての単一障害点となります。Access Server を実行するシステムに十分なリソースが割り当てられていることを確認し、冗長化のための 2 台目のサーバの追加を検討してください。

ヒント ゲートウェイ・モードでのパフォーマンスの低下を最小限に抑えるため、Access Server と RDP ホストのレイテンシを最小限に保ちます。

ローカル・カーソルのオプション

ローカル・カーソルを有効にするには、テキスト・エディタを使用して「.blaze」ファイルを編集し、ファイルの末尾に以下のいずれかを追加します:

1. "null cursor:s:cross"

十字カーソルが表示されます

2. "null cursor:s:arrow"

ローカルの標準矢印カーソルが表示されます

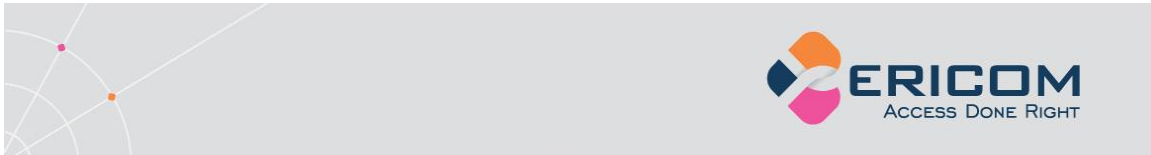
3. "null cursor:s:png"

「blaze.exe」ディレクトリ内の「null_cursor.png」ファイルが使用されます この画像は、32x32 ピクセルであり、最大 32 ビット・カラーで、アルファ値(0 = 透明、255 = 完全に不透明)を含むものである必要があります。

4. "null cursor:s:bmp"

「null_cursor.bmp」と「null_cursor_map.bmp」という 2 つのビットマップ・ファイルを使用しますカーソルのビットマップ(B)とマスク(M)のビットは以下のように結合されます:

B=1 かつ M=1 では、黒が指定されます



B=0 かつ M=1 では、白が指定されます

B=0 かつ M=0 では、透明が指定されます

B=1 かつ M=0 では、Windows では XOR 演算された結果が指定され、他のすべてのプラットフォームでは結果が定義されていません。

注意: この設定を .blaze ファイルに手動で設定した後は、新しい設定を上書き保存しないでください。新しい設定の保存操作によりこの設定が上書きされ、手動で再度追加することが必要になります。

Ericom Blaze for Windows の GUI 日本語表示

Ericom Blaze はインストール後にユーザ・インターフェースを日本語に変更することができます。日本語インターフェースにするには Windows のショートカットのプロパティで言語設定のパラメータを追加します。

1. 新規でデスクトップに日本語インターフェースの Blaze 用ショートカットを作成します。デスクトップ上で右クリックし、表示されるコンテキストメニューから新規作成 - ショートカットを選択します。
2. ショートカットの作成ダイアログが表示されます。参照ボタンをクリックして Blaze.exe を選択し、ショートカットを作成します。インストール先のデフォルトは下記のパスです。(32 ビット版の Blaze クライアントの場合は Program Files が "Program Files (x86)" になります)

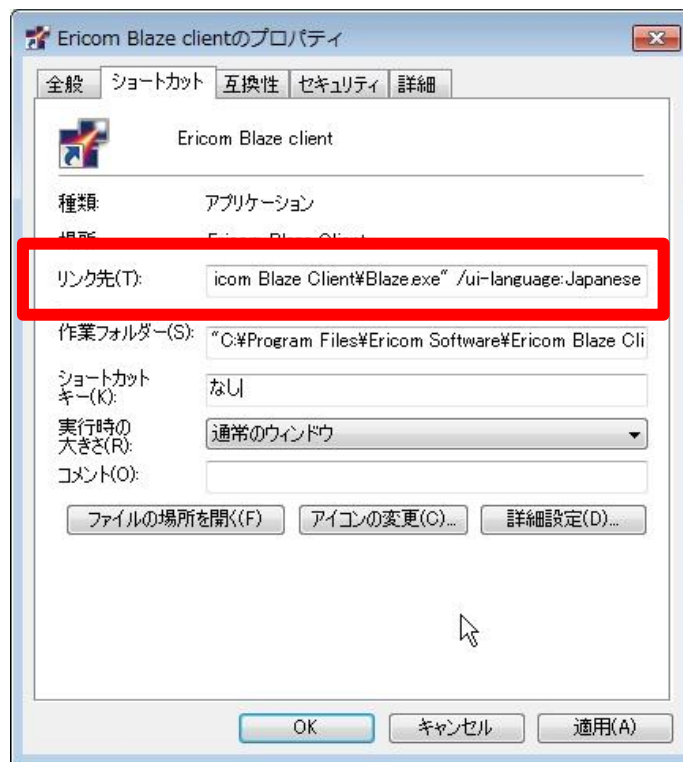
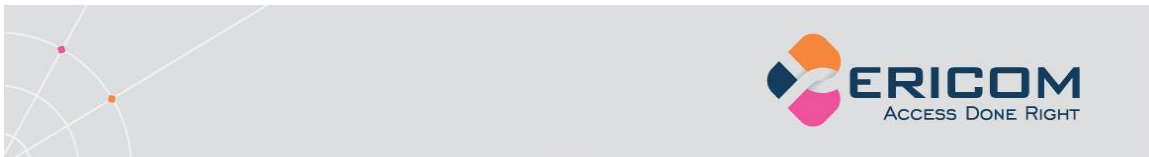
"C:\Program Files\Ericom Software\Ericom Blaze Client\Blaze.exe"

3. 作成されたショートカットアイコンのプロパティを表示します。
4. プロパティの「ショートカット」タブの「リンク先」には 2. で設定したパスが登録されています。そのパスの後ろに以下のパラメータを追加します。

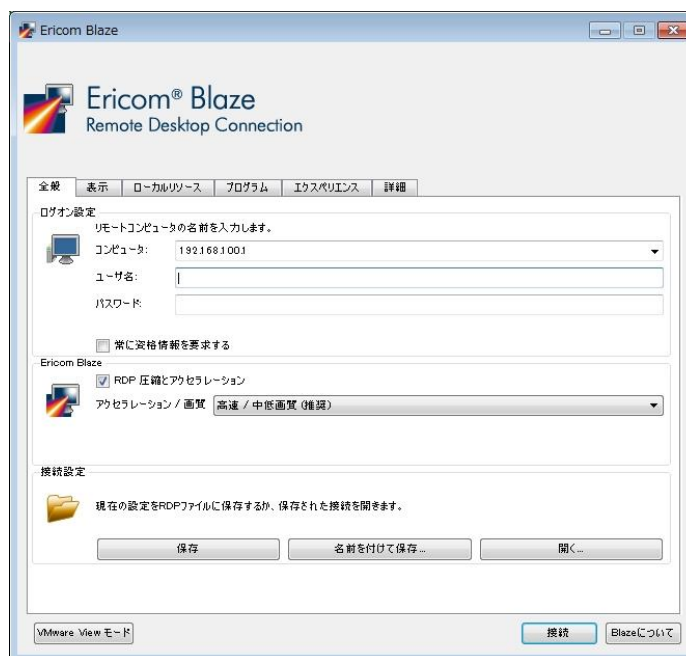
/ui-language:Japanese

リンク先フィールドは以下の記述になります。

"C:\Program Files\Ericom Software\Ericom Blaze Client\Blaze.exe" /ui-language:Japanese

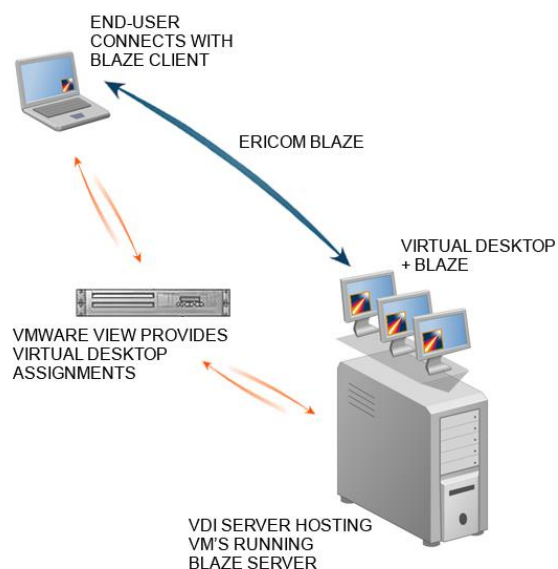


5. パラメータを追加したショートカットをダブルクリックすると日本語ユーザーインターフェースになった Blaze クライアントが起動します。



5. MWARE[®] VIEW クライアント・モード

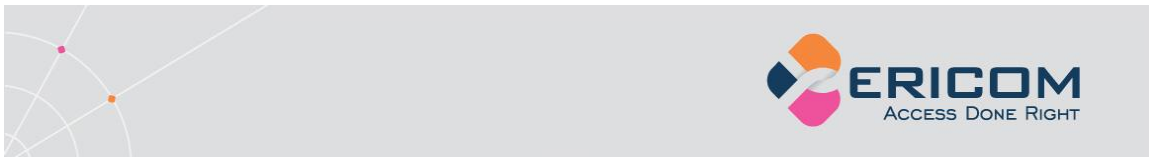
Ericom Blaze クライアントは、VMware View 接続ブローカーをサポートしています。Ericom Blaze は、認証のために View ブローカーを使用した後、目的の仮想デスクトップに直接接続します。VMware View アクセス用に Ericom Blaze RDP Acceleration を使用する場合、View クライアントの代わりに Blaze クライアントが使用されます。Blaze クライアントには View クライアントは必要とされず、View クライアントを置き換える必要もありません。



Blaze クライアントで VMware View モード を有効にするには、*VMware View mode* ボタン をクリックします。



Ericom Blaze - VMware View インターフェースが表示されます。

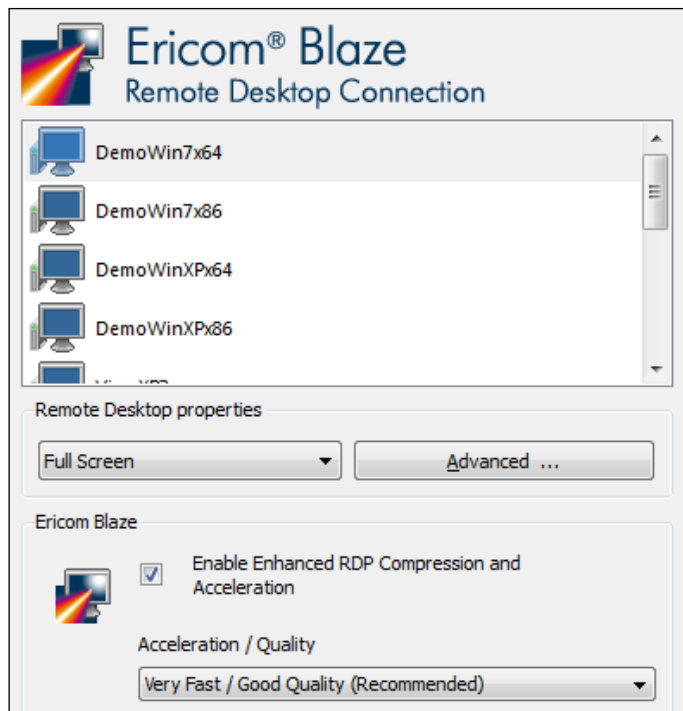
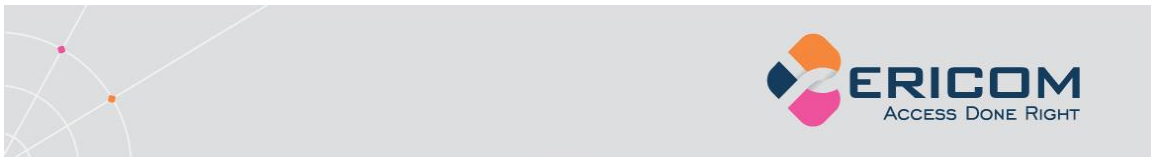


VMware View 接続ブローカーで SSL が必要とされている場合は、SSL を有効にします。

Computer の欄に VMware View サーバのアドレスを入力し、接続をクリックします。

ユーザの資格情報を要求する次のダイアログが表示されます。

認証が完了すると、View ブローカーを介してユーザが利用可能なデスクトップの一覧が、Blaze クライアントに表示されます。

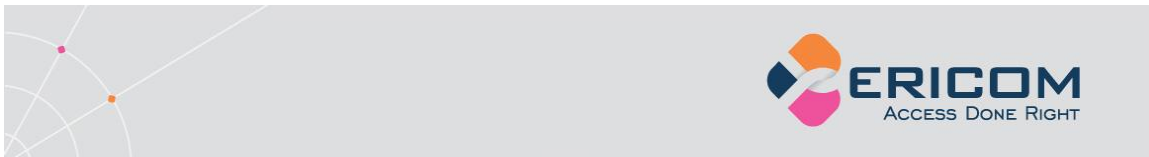


任意の Blaze 設定を構成し、選択したデスクトップに接続するために *Connect* ボタンをクリックします。

注意 Blaze クライアントでは、PCoIP がサポートされていません。Ericom Blaze と Blaze プロトコルは、View クライアントと PCoIP プロトコルからは独立して機能します。

Secure Gateway Access

Ericom Secure Gateway を使用する場合 - *Connect using Ericom Secure Gateway* チェックボックスをオンにします。Ericom Secure Gateway サーバのアドレスを入力します。ポートを明示的に指定しない場合、デフォルトの 443 が使用されます。ポートを指定するには、以下の記入例のように「:」を入力し、アドレスの後にポート値を入力します。上記の例では、Secure Gateway のアドレスは *secgate.acme.com* です。ポートの指定が



ないため、443 が自動的に使用されます。

☒ Connect to remote desktops using Ericom Secure Gateway

Enter host-name[:port] or IP-address[:port].

Secure Gateway:



6. ERICOM BLAZE CLIENT FOR MAC

インストールの前提条件

- Mac OS X 10.8 以降
- ハードディスク上の 30 MB の空き容量
- MMX 対応の CPU

注意：Blaze Client for Mac はバージョン 3.1 です。AccessServer 7.* には対応していません。

Ericom Blaze Client for Mac のインストール

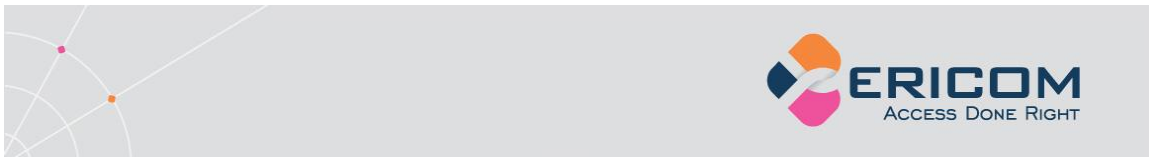
Ericom Blaze Client for Mac を起動するには、インストーラを起動し、インストール・ウィザードの指示に従ってください。



Ericom Blaze Client for Mac を使用する

Ericom Blaze クライアントを起動するには、blaze の実行可能ファイルまたはショートカットを実行します。

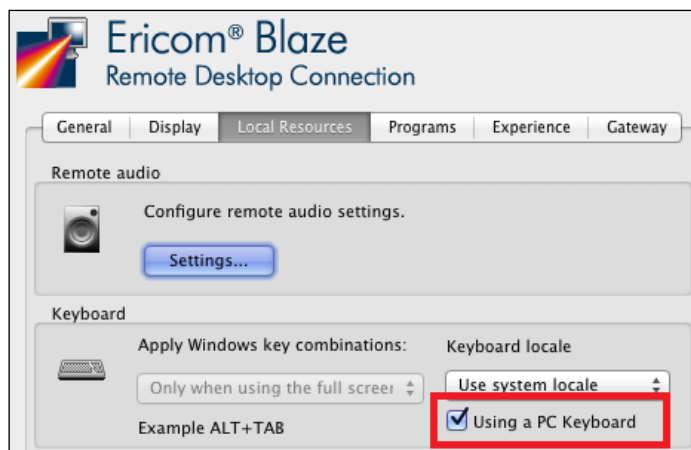
Blaze クライアント 2.5 以降では、.blaze 拡張子が Blaze クライアントに関連付けられています。任意の .blaze 設定ファイルをダブル・クリックすると、その設定ファイルを使用して Blaze クライアントが起動します。



主な機能の使用方法的説明については、「Blaze Client for the Windows」の章を参照してください。このセクションは、Windows 版と Mac 版の Blaze クライアントの機能の違いをカバーしています。

PC キーボードを使用する

Windows ベースの物理キーボードを使用する場合、Blaze クライアントの Local Resources(ローカルリソース) タブに移動し、Using a PC Keyboard の設定をオンにします。

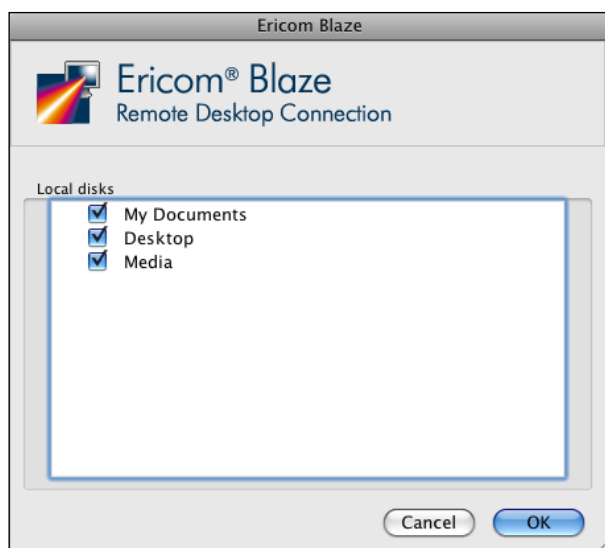
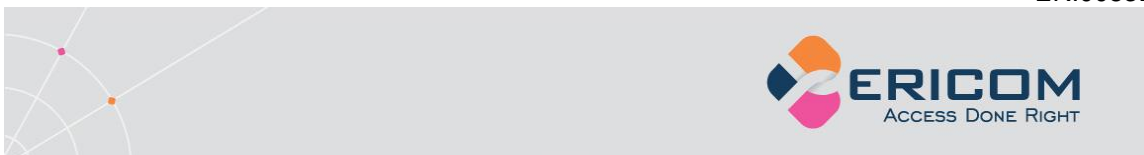


この設定がオンの場合、Mac から Windows へのキー・マッピングの一部が無効になります。コントロールと Windows キーは、ネイティブと同様に動作します。

この設定がオフの場合、デフォルトの Mac キーボード・エミュレーションが使用されます。コントロール(CTRL)キーは Windows キーとして動作し、Command(コマンド)キーは Windows のコントロール(CTRL)キーとして動作します。

ドライブ・マッピング

ドライブ・マッピングのオプションを設定するには、ローカルリソースに移動し、*More devices...* ダイアログに移動します。ドライブ・マッピング・ダイアログでは、以下の 3 つのオプションが提供されます:



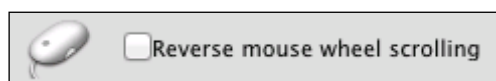
- ホーム・ディレクトリにマップするには、*My Documents* を選択します
- デスクトップ・ディレクトリをマップするには、*Desktop* を選択します
- 「/media」ディレクトリをマップするには、メディアを選択します。このディレクトリは、CD-ROM、フロッピー・ディスクや Zip ドライブなどのリムーバブル・メディア上にファイル・システムをマウントするために使用されます。

プリンタのリダイレクト

Mac クライアント向けのプリンタ・リダイレクトでは、PostScript プリンタのみがサポートされています。さらに、HP PS Universal ドライバを Windows RDP ホストにインストールする必要があります(詳細については、このマニュアルのビルトインの汎用ドライバ印刷のセクションを参照ください)。

逆方向のスクロール・ホイール

一部の Mac 製品では、スクロール・ホイールが逆方向に動作します。現在のスクロール・ホイールの方向を変更するには、ローカルリソース・タブ内の *Reverse mouse wheel scrolling* を選択します。

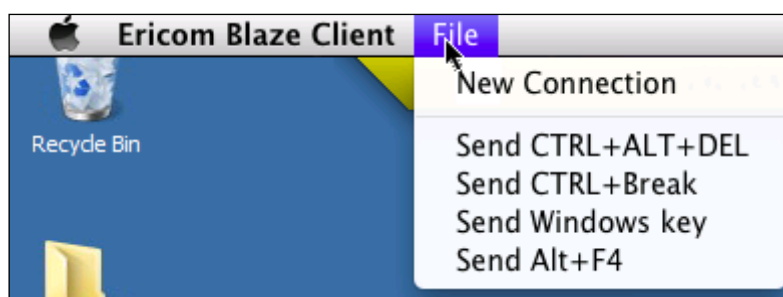




Blaze クライアントのファイル・メニュー

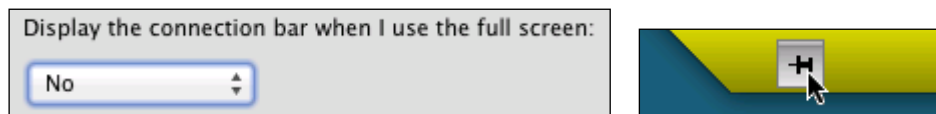
Ericom Blaze Client for Mac では、追加機能を実行するための ファイル・メニューが提供されます。例えば、新しい接続 を開く機能や、Windows 関連の様々なキーの組み合わせを送信する機能があります。

フルスクリーン・モードでファイル・メニューにアクセスするには、画面左上隅にマウスを移動します。Mac ツールバーと並んで、ファイル・メニューの選択が表示されます

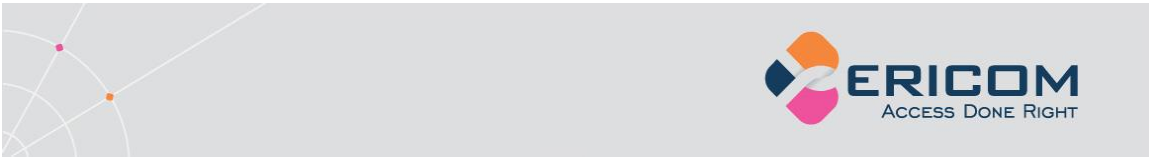


Blaze タイトル・バーを非表示にする

Blaze Client for Mac でタイトル・バーが無効化されている場合、アクティブ・セッション中にタイトル・バーを有効化(表示)することはできません。



Blaze タイトル・バーが有効化されている場合、アクティブな Blaze セッション中にピン留めを解除(無効化)すると、アクティブ・セッション中にタイトル・バーにアクセスできなくなります。再度タイトル・バーを表示するには、セッションを切断し、再度接続する必要があります。



7. ERICOM BLAZE CLIENT FOR LINUX

インストールの前提条件

- 大部分の最新の Linux ディストリビューション。例えば、Red Hat、Fedora、Suse、Ubuntu など。
Linux カーネル 2.6 以上が必要です。
- ハードディスク上の 20 MB の空き容量
- MMX 対応の CPU
- Blaze を使用する前に以下の X11 ライブラリをインストールする必要があります: Xcursor、Xrandr、Xinerama

注意： Blaze Client for Linux はバージョン 3.2 です。AccessServer 7.* には対応していません。

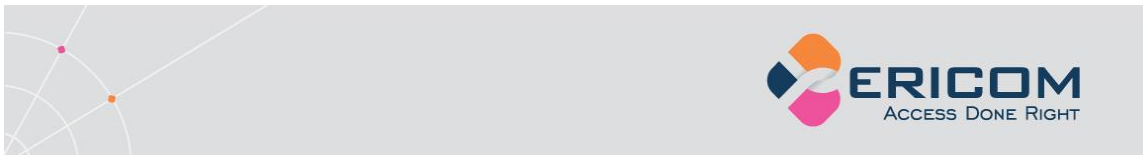
Ericom Blaze Client for Linux をインストールする

Ericom Blaze Client for Linux に、以下の 4 種類のインストーラがあります：

- 「rpm」 - Red Hat、Fedora、Suse など、ほとんどの Linux ディストリビューション用
- 「deb」 - Ubuntu や HP® ThinConnect などの、Debian ベースの Linux ディストリビューション用
- ほとんどの Linux 環境に対応したグラフィカル・インストーラ - root や他のユーザが使用可能です。
- すべてのファイルを含む「Blaze.tar.gz」アーカイブ - Linux シンクライアントへのインストールに適しています。

「rpm」を使用してインストールするには、次のコマンドを入力します：

```
rpm -I Ericom-Blaze-Client.rpm
```

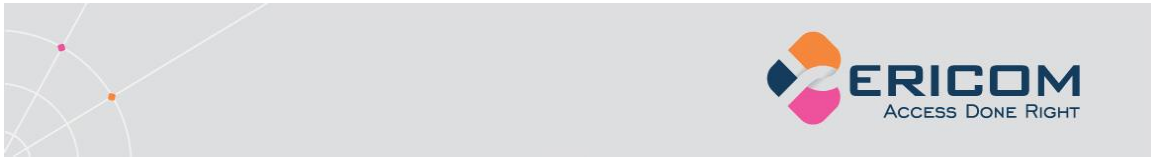


「deb」を使用してインストールするには、Ericom-Blaze-Client.deb ファイルをダブル・クリックします。

「deb」バージョンのインストールは、次のコマンドからもインストールできます：

```
dpkg -i Ericom-Blaze-Client.deb
```

| |
|--|
| <p>注意 Linux シンククライアントに Blaze の「deb」パッケージをインストールする場合、シンククライアント・ベンダー製のソフトウェア・インストール・ツールが必要になることがあります。</p> |
|--|



グラフィカル・インストーラを使用するには、以下の手順を実行します:

6. 「Ericom-Blaze-Client-For-Linux.zip」を解凍します。
7. zip ファイルから展開された「Ericom-Blaze-Client-For-Linux.sh」を起動します
8. インストール・ウィザードの指示に従います

root でインストーラを実行する場合、デフォルトで次の場所にインストールされます:

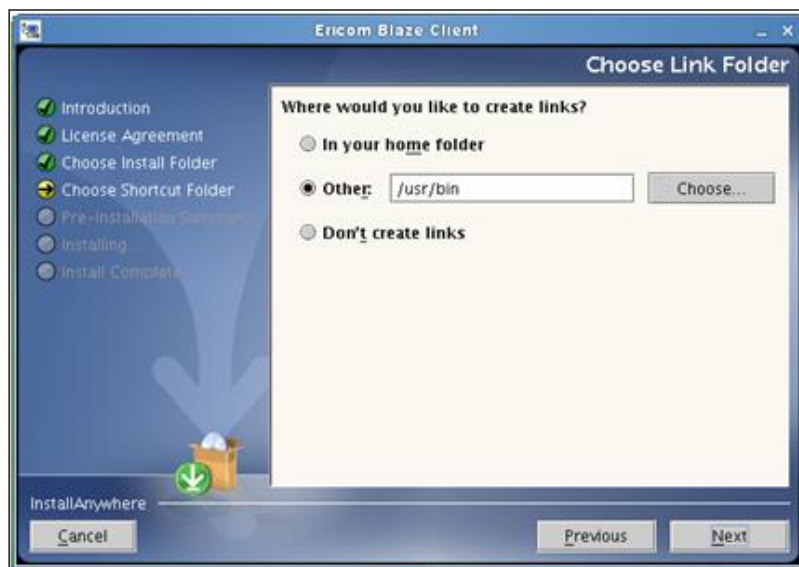
/Ericom-Blaze-Client

それ以外の場合、インストールを行うユーザのホーム・ディレクトリにインストール・ディレクトリが作成されます。例えば:

/home/user/Ericom-Blaze-Client

インストール・ディレクトリには、blaze という名前の実行可能ファイルが含まれています。Ericom Blaze クライアントを起動するには、このファイルを実行します。

グラフィカル・インストーラでは、実行可能ファイルへのリンク・ファイルを希望するディレクトリ内に作成するオプションが提供されます。デフォルトは、/usr/bin です。



対象のフォルダの書き込み権限が必要です。権限がない場合、エラー・メッセージが表示されます。



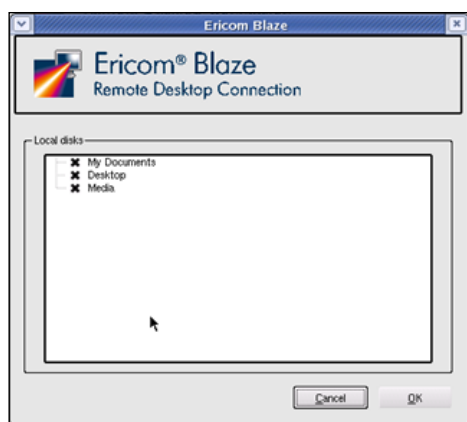
Ericom Blaze Client for Linux を使用する

Ericom Blaze クライアントを起動するには、blaze の実行可能ファイルまたはリンクを実行します。Windows プラットフォーム上と同様の接続ウィザードが表示されます。詳細については、「Blaze Client for Windows」の章を参照ください。実行可能ファイルは次のディレクトリにあります: /opt/Ericom-Blaze-Client

主な機能の使用方法的説明については、「Blaze Client for the Windows」の章を参照してください。このセクションは、Windows 版と Linux 版の Blaze クライアントの機能の違いをカバーしています。

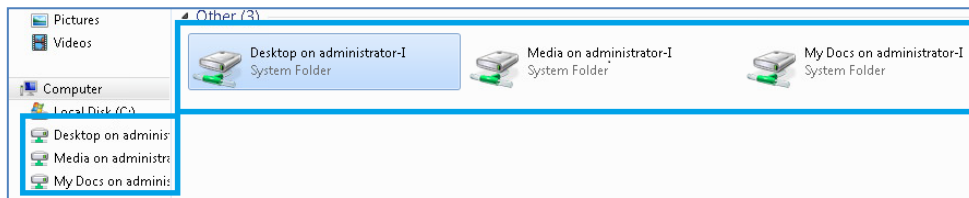
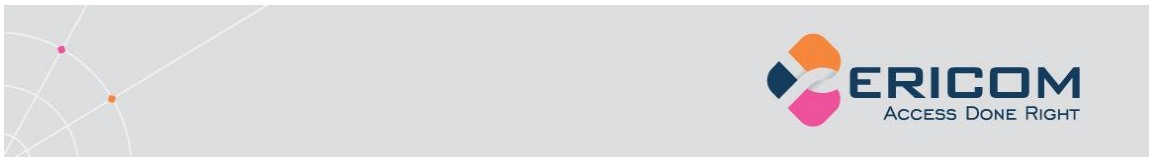
ドライブ・マッピング

ドライブ・マッピング・ダイアログでは、以下の 3 つのオプションが提供されます:



- ホーム・ディレクトリにマップするには、*My Documents* を選択します
- デスクトップ・ディレクトリをマップするには、*Desktop* を選択します
- 「/media」ディレクトリをマップするには、メディアを選択します。このディレクトリは、CD-ROM、フロッピー・ディスクや Zip ドライブなどのリムーバブル・メディア上にファイル・システムをマウントするために使用されます。

Windows セッションに Blaze Linux クライアントが接続されると、コンピュータの一覧にドライブが表示されます。

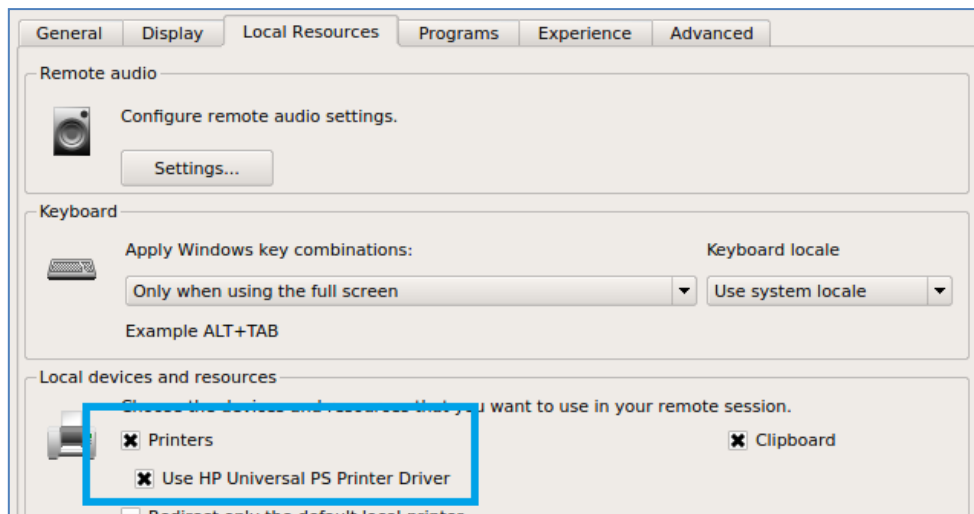


プリンタのリダイレクト

Linux クライアント向けのプリンタ・リダイレクトでは、PostScript プリンタのみがサポートされています。Windows RDP ホスト上に、以下のプリンタ・ドライバをインストールする必要があります。

- 32 ビット・システム(x86)上には、Windows PostScript 用の HP Universal Print ドライバをインストールします。
- 64 ビット・システム(x64)上には、Windows PostScript x64 用の HP Universal Print ドライバをインストールします。

印刷を有効にするには、ローカルリソース・タブをクリックし、「Printers」と「Use HP Universal PS Printer Driver」をオンにします。





8. ERICOM をアンインストールする

Windows

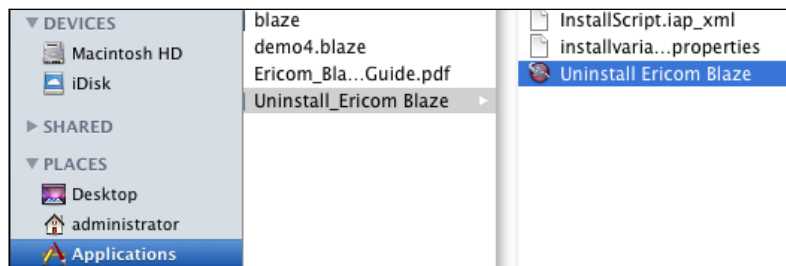
コントロール・パネルの「プログラムの追加と削除」を使用して Ericom Blaze クライアントと Access Server をアンインストールします。

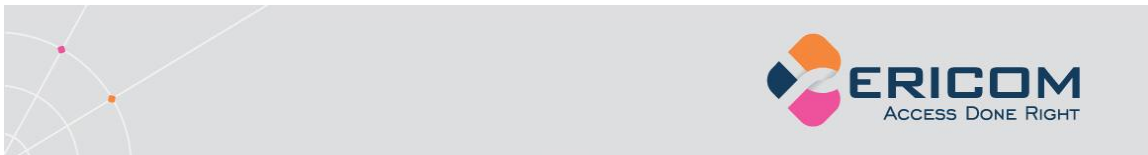


目的のアプリケーションを選択し、アンインストール または 削除 をクリックし、アンインストール・プロセスを開始します。

Mac

Blaze のアプリケーション・ディレクトリからアンインストールを実行します





Linux

システムのアプリケーション・マネージャ(例: Ubuntu 上の *Synaptic*)を使用して、Ericom Blaze Client for Linux を削除します。

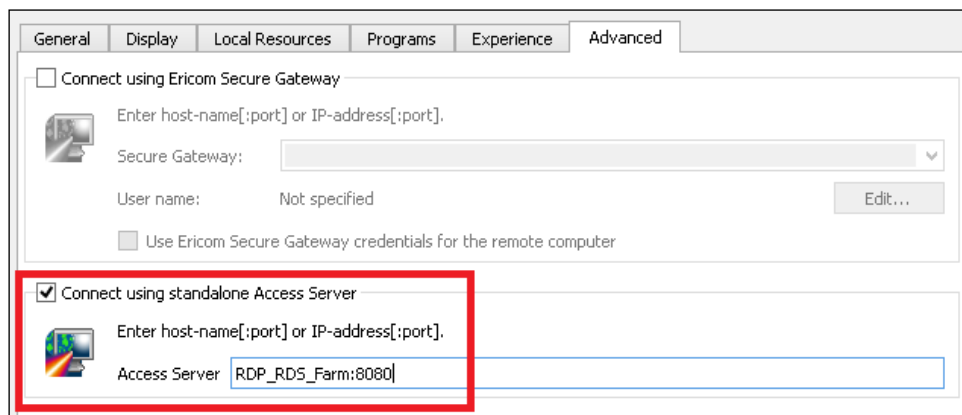


9. BLAZE とロード・バランサ

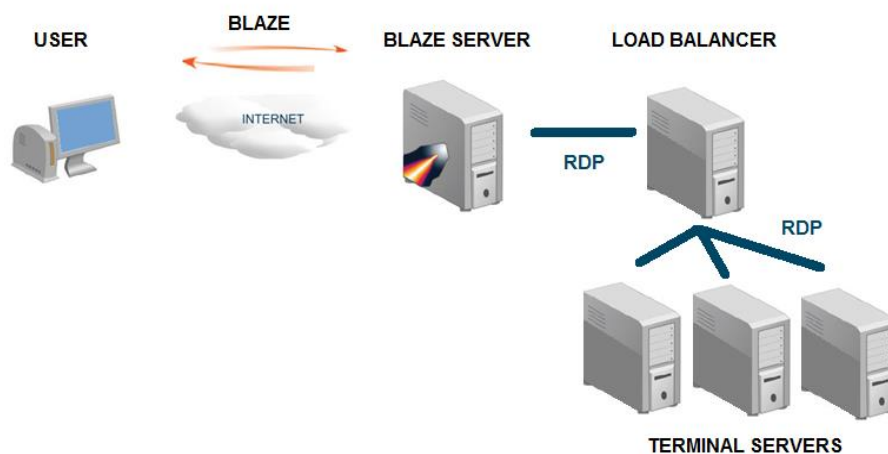
大規模なアプリケーションやデスクトップをホストする展開では、複数の RDP ホスト・サーバが必要になります。高い負荷を処理し、大規模なターミナル・サーバ群へユーザを均等に分散するために、Ericom PowerTerm WebConnect 接続ブローカーの使用をお勧めします。ただし、サード・パーティのターミナル・サーバに対応したロード・バランサ(例: Microsoft Windows 2008 R2 リモート・デスクトップ・コネクション・ブローカーや 2X Load Balancer)を使用することもできます。

負荷分散された RDP ファームで Blaze を使用するには、専用の強力なサーバに Access Server をインストールします。この場合には、x64 サーバと x64 Access Server の使用を強くお勧めします。Access Server のサーバ側受信ポート(例: 3399)と RDP 送信ポート(例: 3389)を開放します。

Access Server のアドレスに接続するように Ericom Blaze クライアントを設定します。Access Server により、ロード・バランサへの通信が転送されます。良好なパフォーマンスを確保するため、Access Server、ロード・バランサ、RDP ホストを近接させ、レイテンシを最小限にする必要があります。

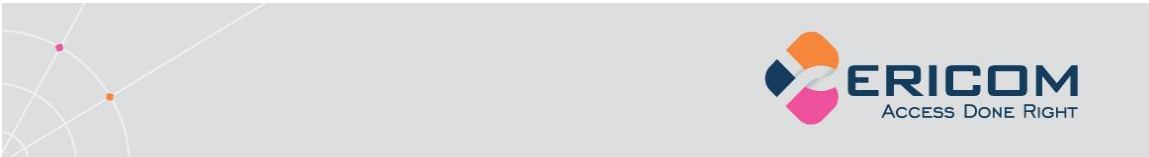


以下の図は、ロード・バランサと Ericom Blaze の動作の仕組みを示しています。



Ericom Access Server を実行するシステムは、アクティブ・ユーザの総数を処理するために十分なメモリを備えている必要があります。

注意 Access Server をゲートウェイとして使用する場合、強力なサーバ(最低 2 コア CPU と 4GB RAM)上で x64 バージョンを使用することをお勧めします。



10. BLAZE クライアントのコマンド・ライン・パラメータ

Blaze.exe [オプション]

/option:<値>

/option:<デフォルト値、別の値、また別の値>

ブール値には、次のいずれかを使用することができます: true、false、yes、no、on、off、1、0

例:

```
Blaze /bpp:32 /f /connection-bar:yes /audio:off /drive:C /drive:desktop /printer:*,3 /clipboard:1 /v:somehost
```

オプション:

/v:server [:ポート値] - RDP サーバのホスト名

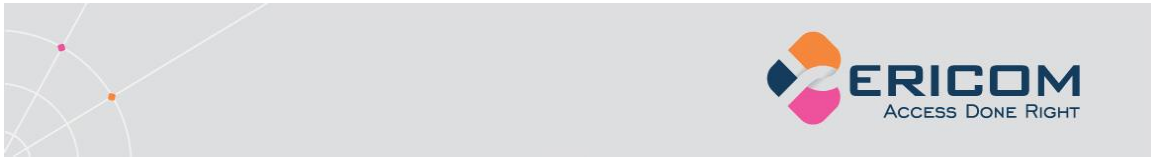
/u:[<ドメイン>]<ユーザ名> または <ユーザ名>[@<ドメイン>]

/p:<パスワード>

/d:<ドメイン>

/admin - 管理者 (またはコンソール) セッション

/multimon:<「use」、「span」またはモニタ番号> - Multimon 機能を使用するか、マルチモニタをスパンして表示するか、特定のモニタを使用します



/w:<幅> - リモート デスクトップの幅

/h:<高さ> - リモート デスクトップの高さ

/size:<幅>x<高さ> - リモート デスクトップの画面サイズ

/f - フルスクリーン・モード

/bpp:<色深度> セッションの bpp(色深度)

/shell:<代替シェル>

/shell-dir:<代替シェルの作業ディレクトリ>

/jpeg-quality:<percentage> 0 = アクセラレーションなし、100 = ロスレス、1-99 = JPEG 品質

/connection-bar:<「yes」、「no」または「pinned」> 接続バーのモード(フルスクリーンのみ)

/use-esg:<「off」または「on」> Ericom Secure Gateway を使用します

/esg-creds-mode:<「separate」、「gw」または「rdp」> - Ericom Secure Gateway の資格情報モード

/g:<ゲートウェイ>[:ポート値] - ゲートウェイのホスト名

/gu:[<ドメイン>]<ユーザ名> or <ユーザ名>[@<ドメイン>] - ゲートウェイのユーザ名

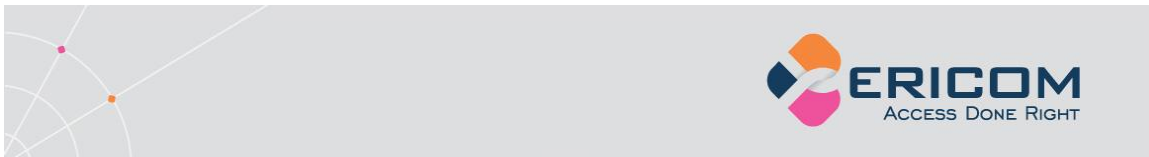
/gp:<パスワード> ゲートウェイのパスワード

/gd:<ドメイン> - ゲートウェイのドメイン

/access-server:<サーバ>[:ポート値] - Access Server のホスト名

/use-scancodes:<「on」または「off」> Unicode をスキャンコードに変換します

/remote-show-window:<「+」または「_」> - デフォルト: 通常, 「+」: 最大化, 「_」: 最小化



/xtea-password:<パスワード> - XTEA パスワード暗号化

/disable-reconnect:<「off」または「on」> -セッションの再接続を無効化

/session-name:<name> 接続名

/null-cursor-shape:<「default」、「blank」、「cross」、「arrow」、「bmp」または「png」> null カーソルの形状

/reverse-mouse-wheel マウス・ホイールを逆方向にします

/kbd:0x<レイアウト ID> または <レイアウト名> - キーボードのレイアウト

/kbd-subtype:<サブタイプ ID> -キーボードのサブタイプ

/kbd-fn-key:<ファンクション・キーのカウン> - キーボードのファンクション・キーのカウン

/workarea: 利用可能なワーク・エリアを使用します

/monitors:<「*」または 0,1,2...> - 使用するモニタを選択します

/addins:<「*」または 特定の dll> - 「*」はすべてのアドインを指定します

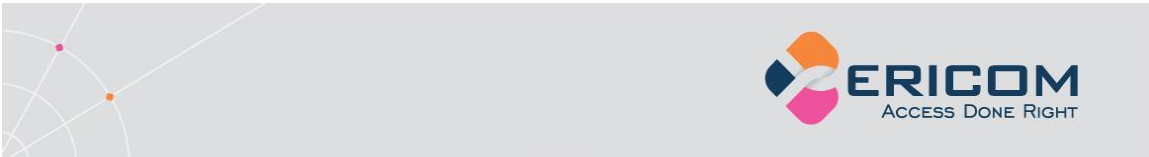
/audio:<「play-on-client」、「play-on-server」または「off」> - 音声出力モード

/network:<「none」、「modem」、「low-speed-broadband」、「satellite|high-speed-broadband」、「wan」または「lan」> - ネットワーク接続の種類

/drive:<「*」、「C」、「D」..、「dynamic」、「desktop」または「docs」> - ドライブをリダイレクトします。「*」はすべて、「C」は「C:\」、「dynamic」は後で接続するドライブをリダイレクトします

/clipboard:<「off」または「on」> -クリップボードをリダイレクトします

/printer<「*」、「1」、「2」または「3」> -1 プリンタをリダイレクトします。1 = ネイティブ、2 = 汎用、3 = 両方



/uprinter-use-hp:<「off」または「on」> - HP のドライバを使用した汎用ドライバ印刷

/uprinter-driver:<ドライバ名> - 汎用印刷ドライバ

/fonts:<「off」または「on」> - フォントを滑らかにします(ClearType)

/aero:<「off」または「on」> - デスクトップ構成

/window-drag:<「off」または「on」> - 完全なウィンドウのドラッグ

/menu-anim:<「off」または「on」> - メニューのアニメーション

/wallpaper:<「on」または「off」> - 壁紙

/cache-waiting-list:<「on」または「off」> キャッシュの待機リストを使用します

/fast-path:<「on」または「off」> 高速パス入力/出力

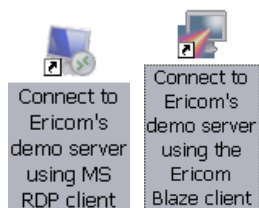


11. テクニカル・サポート

このセクションでは、設定における一般的な問題を解決するための方策を説明します。

質問: 適切な RDP ホストを設定することなく、Ericom Blaze の動作を確認するための公開デモ・サーバはありますか？

回答: はい。Ericom Blaze クライアントをインストール後、「スタート | プログラム | Ericom | Blaze Client」のフォルダ内に 2 つの選択肢があり、標準の RDP を使用する場合と Ericom Blaze RDP を使用した場合のパフォーマンスを比較できます。



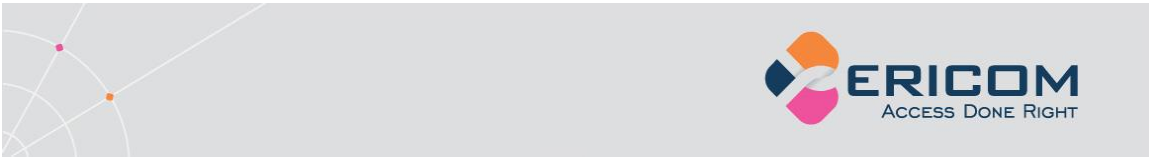
デモ・サーバには、パフォーマンスを評価するための様々なアプリケーションやドキュメントが含まれています。

ヒント ポート 22 を介して「rdpdemo.ericom.com」にクライアント・デバイスを接続できることが必要です。

質問: アイドル状態の Blaze セッションで広い帯域幅が使用されます。何が起きているのでしょうか？

回答: グラフィックスやアニメーションが豊富なスクリーン・セーバーを無効にしてください。空白の画面またはテキストのスクリーン・セーバーを使用してください。アニメーションを含むスクリーン・セーバーにより、すべてのプロトコルで広い帯域幅が使用されます。

質問: Blaze は上り帯域を使用しますか？



回答: はい、Ericom Blaze は通信の一部として上り帯域を使用します。ファイル共有プログラムなどの一部のアプリケーションでは、上り帯域が広く使用されます。このようなアプリケーションは上り帯域を制限する必要があります。または、アクティブな Blaze セッションが存在する際は使用しないでください。

質問: どのようにして RDP ポートをカスタム値に変更できますか？

回答: 「レジストリ エディタ」(regedit.exe)を使用して、以下の設定を変更します:

HKEY_LOCAL_MACHINE\System\CurrentControlSet\Control\TerminalServer\WinStations\RDP-Tcp\PortNumber

任意のポート値を入力します。この設定は、自動的に Access Server に認識されます。

質問: 「"Unable to connect to Ericom Access Server"(Ericom Access Server に接続できません)」というメッセージが表示されるのはなぜですか？

回答: Ericom Access Server が実行されていないか、アクセスできない状態です。

- ping を使用して、サーバ(例: テスト・サーバ)がアクセス可能な状態であることを確認してください。
- ホスト/サーバのファイアウォールで Ericom Blaze のトラフィック(デフォルトでは 3399)が許可されているか確認してください。
- サーバのタスク・マネージャを使用して、Access Server が実行中であることを確認してください(Access Server はサービスとして実行されるため、タスク・マネージャですべてのユーザのプロセスが表示されるよう設定する必要があります)。
- Access Server の設定で、宛先ポートが適切に設定されていることを確認します。

質問: RDP アクセラレーションを有効化した Blaze クライアントを起動すると、スプラッシュ・スクリーンが表示された後、何も起こりません。何が起きているのでしょうか？



回答: Blaze クライアントを Access Server に接続できていますが、RDP ホストには接続できていません(RDP ホスト上で Access Server を実行中だとしても)。ホストへの RDP アクセスが無効化されているか、RDP アクセスが特定のネットワーク・アダプタに限定されている可能性があります。

ターミナル・サーバへの RDP アクセスが特定のネットワーク・アダプタに限定されているかを確認するには、管理ツールから「ターミナル・サービス設定」を開きます。表示されるダイアログで、「RDP-Tcp」をダブル・クリックし、「ネットワーク・アダプタ」タブを選択します。ネットワーク・アダプタのドロップダウンが「このプロトコルで構成されたすべてのネットワーク・アダプタ」に設定されていることを確認してください。

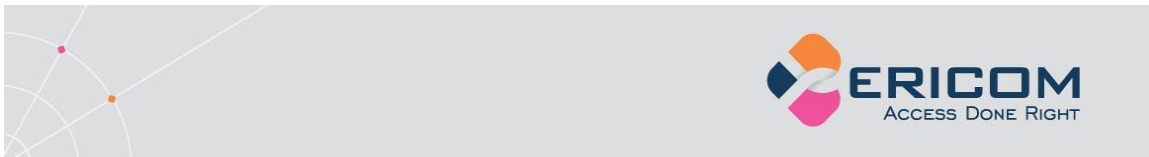


質問: Blaze を使用することで、どの程度のアクセラレーションを期待できますか？

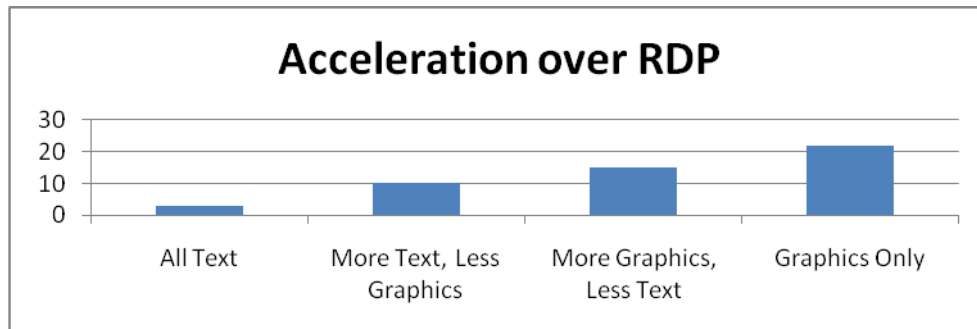
Blaze はテキストをアクセラレートしますか？

回答: これは、各環境のネットワークのタイプと表示内容により異なります。Blaze は、RDP セッションを**最大 20 倍**アクセラレートします。AirCard など、高レイテンシ、低帯域幅の制限を持つネットワークで使用した場合に、最も効果を発揮します。ネットワークの制約がない LAN 経由で接続する場合、顕著な改善は見られない可能性があります。

セッションの大部分がテキスト(例: メールの編集)で構成されている場合や、単色画像(例: 白黒画像)で構成されている場合は、グラフィックの豊富なアプリケーション(例: サ



テライト・モードの Google マップ)の場合と比較して、アクセラレーションは減少します。



質問: 高解像度のクライアント・システムで 2003 サーバへ接続すると、色深度が指定した値より低くなります、 どうすればこの問題を解決できますか？

回答: 最近の Windows 2003 サービス・パックにより、高解像度セッションの RDP 色深度が低く設定されます(帯域幅を節約するため)。元の動作に戻す(設定済みの色深度を保つ)には以下のページの上にあるリンクを使用して、Windows Server 2003 用の「Microsoft Hotfix」をダウンロードしてください:

<http://support.microsoft.com/kb/942610>

「Microsoft Hotfix」のインストール後に、以下のレジストリ・キーを手動で更新します

レジストリ・サブキー: HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\Terminal Server

レジストリ・エントリ: AllowHigherColorDepth

タイプ: REG_DWORD

値: 1

| Name | Type | Data |
|---------------------|-----------|-----------------|
| (Default) | REG_SZ | (value not set) |
| AllowHigherColor... | REG_DWORD | 0x00000001 (1) |
| DeleteTempDirsO... | REG_DWORD | 0x00000001 (1) |

最後に、システムを再起動します。次のセッションは、クライアントにより指定された色深度が使用されます。

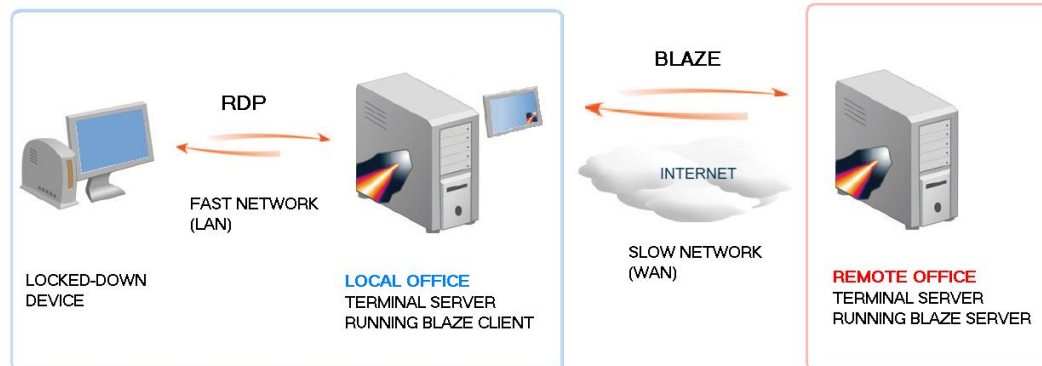
質問: Ericom Blaze では、Wyse S10/V10 Thin OS デバイスがサポートされていますか？



回答: Wyse Thin OS デバイス向けに Blaze アクセスを提供するには、Access Server をゲートウェイとして使用するのが最善の方法です。これを実装するには、以下の手順を実行します:

Wyse ターミナルを実行する新しい(ローカル)ターミナル・サーバをセットアップします。ローカル・ターミナル・サーバに Blaze をインストールします。

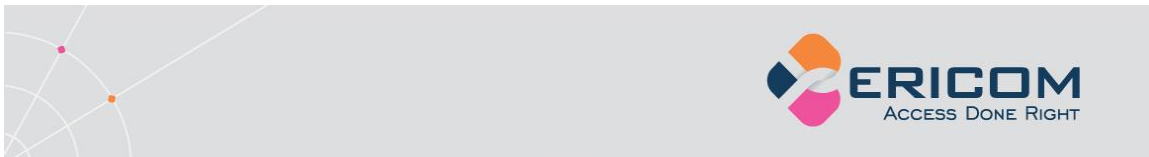
(高速 LAN 接続を使用して) RDP ローカル・ターミナル・サーバと Wyse ターミナルを接続し、(低速ネットワーク接続を経由して)リモート・システムに接続するために、Blaze クライアントを実行します。



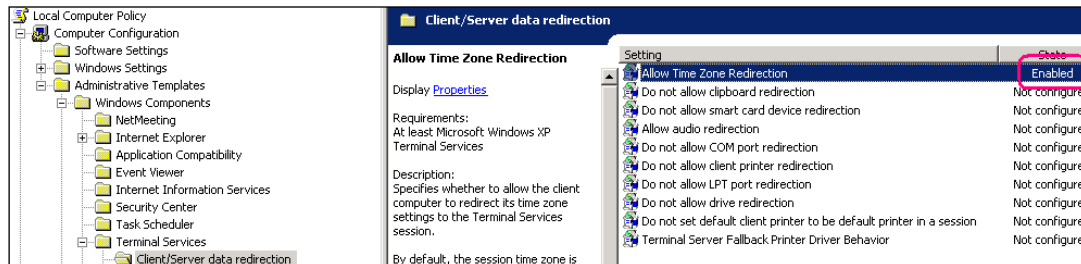
質問: Access Server を実行する複数のマシンを構成する場合、最善の方法は何でしょうか?

回答: グループ・ポリシーを使用して、Access Server のレジストリ設定を変更します。このレジストリ・キーは、Access Server 設定アプリケーションの *Advanced* ページからアクセスします。

質問: タイムゾーンのリダイレクトが動作しないのはなぜですか?



回答: RDP ホスト上のタイムゾーンの同期を有効にしてください。これは、以下のよう
にグループ・ポリシー・エディタを使用して設定できます。



質問: Windows Azure で Ericom Blaze を使用するには、どのように設定すればよいですか？

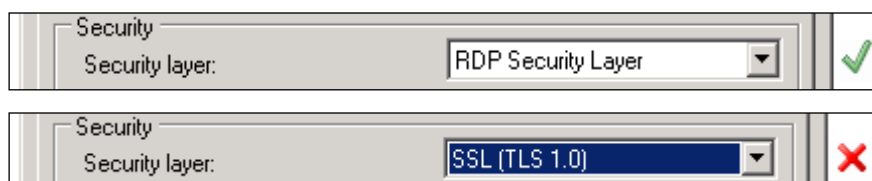
回答: Azure で Blaze を使用するには、以下の手順を実行します：

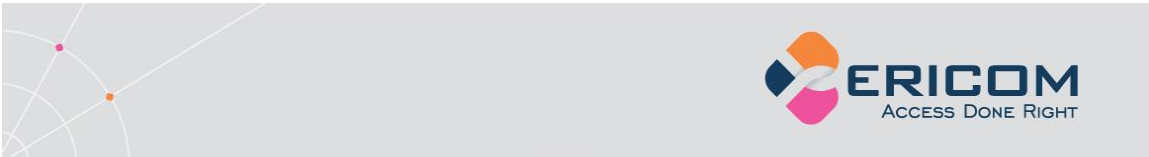
- Windows 2012 サーバを作成します
- 管理ポータルでそのマシンをクリックし、次に「EndPoint」をクリックします。
- ポート 8080 を介した TCP 用の新しいエンドポイントを追加します(これは、Windows ファイアウォール外部のファイアウォールのようなものです)。
- Blaze クライアント上で、以下に接続します：
AzureServerName.cloudapp.net:8080

質問: 接続ができず、イベント・ビューアー に 次のような TermDD エラーが表示されます。

The RDP protocol component X.224 detected an error in the protocol stream and has disconnected the client.

回答: Access Server には、RDP ホスト上で有効にするためのネイティブ RDP へのアクセスが必要です。このため、*RDP Security Layer* を *SSL* へ変更しないでください。
RDP Security Layer の設定は変更せず、ビルトインの AccessNow *SSL* 暗号化または *Secure Gateway* を使用して *SSL* 暗号化を追加します。





質問: どのように技術支援を依頼すればよいですか？

回答: 以下の情報を記載して、SUPPORT@ERICOM.COM宛に E メールを送信してください。

- どのバージョンの Ericom Blaze を使用していますか？
- 接続先(ホスト)のシステム/オペレーティング・システムはどのタイプですか？
(例: Windows Server、7) 32 ビットと 64 ビットのどちらですか？ RDP は有効になっていますか？
- 接続元(クライアント)のシステム/オペレーティング・システムはどのタイプですか？
(例: Windows Server、7) 32 ビットと 64 ビットのどちらですか？
- ホストでポート 3399 が有効になっていますか？ (ファイアウォールで例外に設定されていますか？)
- どんなエラー・メッセージが表示されていますか？
- Blaze でどのようなタイプのアプリケーションを使用していますか？
グラフィカル、テキスト、またはその両方ですか？
- この問題が発生している人数・マシン数・ホスト数はどのくらいですか？



ERICOM について

Ericom Software はアプリケーション・アクセスと仮想化および RDP アクセラレーション・ソリューションの世界的なリーディング・プロバイダです。Ericom は 1993 年以來、様々なシステム上で実行される企業向けのミッション・クリティカルなアプリケーションへのユーザのアクセスを支援してきました。Microsoft Windows ターミナル・サーバ、仮想デスクトップ、レガシー・ホストなどの幅広い環境に対応しています。弊社は米国、英国、EMEA 地域にオフィスがあります。また、北米、ヨーロッパ、アジアおよび極東に渡り幅広いパートナーのネットワークを構築しています。弊社の顧客ベースは 3 万以上で増加を続けており、これまでに 700 万以上のインストールが行われています。

Ericom に関する詳しい情報については、弊社 Web サイト (<http://www.ericom.com>) をご覧ください。

製品とサービスに関する詳しい情報につきましては、最寄りの拠点までお問い合わせください。

弊社の Web サイトもご覧ください: <http://www.ericom.com>

North America

Ericom Software Inc.
231 Herbert Avenue, Bldg. #4
Closter, NJ 07624 USA
Tel +1 (201) 767 2210
Fax +1 (201) 767 2205
Toll-free 1 (888) 769 7876
Email info@ericom.com

Western Europe

Ericom Software (UK) Ltd.
11a Victoria Square
Droitwich, Worcestershire
WR9 8DE United Kingdom
Tel +44 (0) 845 644 3597
Fax +44 (0) 845 644 3598
Email info@ericom.co.uk

International

Ericom Software Ltd.
8 Hamarpeh Street
Har Hotzvim Technology Park
Jerusalem 91450 Israel
Tel +972 (2) 591 1700
Fax +972 (2) 571 4737
Email info@ericom.com

